作成:2024/10/02
科目コード:NH101

キリスト教学共同演習　1

Faculty/Student Joint Seminar in Christian Studies 1

阿部　善彦／長谷川　修一／廣石　望／梅澤　弓子／加藤　磨珠枝／加藤　喜之／ゾンターク, M／米沢　陽子／金　迅野(ABE YOSHIHIKO/ HASEGAWA SHUICHI/ HIROISHI NOZOMU/ UMEZAWA YUMIKO/ KATO MASUE/ KATO YOSHIYUKI/SONNTAG MIRA/YONEZAWA YOKO/KIM SHINYA)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH101
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS5813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	重複履修不可 後期課程用科目コード:TH301		

授業の目標 / Course Objectives

研究倫理および論文執筆における注意事項、研究論文や研究報告書の様々な理論的・方法論的アプローチについて学ぶ。

We will learn about scientific ethics and important aspects that demand attention in scientific writing and get an overview on various theoretical and methodological approaches.

授業の内容 / Course Contents

図書館の使い方を確認し、情報検索の方法を身につける。また研究において求められる倫理および論文執筆のルールを学ぶ(引用のし方や注の付け方などのルールを無視した結果、研究不正と見なされる事態を招く可能性があることに注意)。その上で論文や研究報告書の執筆に不可欠な基礎技法を学ぶ。

We will confirm how to use the library and how to conduct data searches. Furthermore, we will learn about the ethical demands relating to research and the rules for scientific writing (special emphasis is placed on the fact that ignorance of rules such as rules for citation and reference can lead to accusations of research misconduct). Based on these steps, we will learn fundamental methods indispensable for the preparation of scientific papers and research reports.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション
【2】:図書館講習
【3】:情報検索講習
【4】:研究倫理(1)
【5】:研究倫理(2)
【6】:論文・研究報告書執筆のルール(学術論文執筆のルール)(1)
【7】:論文・研究報告書執筆のルール(学術論文執筆のルール)(2)
【8】:論文・研究報告書執筆の基礎技法(引用・要約・レジュメ作成)(1)
【9】:論文・研究報告書執筆の基礎技法(引用・要約・レジュメ作成)(2)
【10】:論文・研究報告書執筆の基礎技法(引用・要約・レジュメ作成)(3)
【11】:論文・研究報告書執筆の基礎技法(引用・要約・レジュメ作成)(4)
【12】:論文・研究報告書執筆の基礎技法(引用・要約・レジュメ作成)(5)
【13】:論文・研究報告書執筆の基礎技法(引用・要約・レジュメ作成)(6)
【14】:論文・研究報告書執筆の基礎技法(引用・要約・レジュメ作成)(7)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習・復習、その他求められる課題(宿題)の処理。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業内活動(予習、復習、提出物および授業内での討議への参加・発言の精度):100%
遅刻、途中退出は認めない。単位取得には 80%以上の出席を必要とする。

テキスト / Textbooks

なし。

参考文献 / Readings

必要に応じて提示する。

作成:2024/10/02
科目コード:NH102

キリスト教学共同演習　2

Faculty/Student Joint Seminar in Christian Studies 2

長谷川　修一／阿部　善彦／加藤　磨珠枝／加藤　喜之／ゾンターク, M／米沢　陽子／金　迅野／藤原　佐和子／柳堀　素雅子／赤城　M.（HASEGAWA SHUICHI/ ABE YOSHIHIKO/ KATO MASUE/ KATO YOSHIYUKI/ SONNTAG MIRA/ YONEZAWA YOKO/KIM SHINYA/FUJIWARA SAWAKO/YANAGIBORI SUGAKO/AKAGI MATTHEW-KAI）

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH102
授業形態	対面（全回対面）	授業形態（補足事項）	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS5813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－（履修中止制度なし/ No system for cancellation）	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	重複履修不可 後期課程用科目コード:TH302		

授業の目標 / Course Objectives

専攻所属教員と院生の参加による、研究発表とそれを巡る議論を通して、研究課題や問題を共有し、研究上の視野拡大と理解の深化を目指す。

We will share research topics and problems through research presentations and debates by participating teachers and graduate students to expand the vision and deepen our understanding of the research.

授業の内容 / Course Contents

参加する院生が、各自の研究テーマについて行う研究発表を基本とする。各研究発表について、全参加者による質疑応答と議論が行われ、テーマの展開と深化がはかられる。それを受けて発表者各自が調査・研究を進展させ、探求課題の修正と進展を盛り込んだうえで、最終的に論文にまとめ上げる。

Participating graduate students will present their research on their individual research topics. For each research presentation, there will be a Q&A session and debate with all participants to further develop and deepen the topics. Each presenter will use this to develop their investigations and research as well as edit and expand the research topics. Finally, they will summarize their findings in a report.

授業計画 / Course Schedule

【1】:授業ガイダンス
【2】:研究発表と質疑応答、討議
【3】:研究発表と質疑応答、討議
【4】:研究発表と質疑応答、討議
【5】:研究発表と質疑応答、討議
【6】:研究発表と質疑応答、討議
【7】:研究発表と質疑応答、討議
【8】:研究発表と質疑応答、討議
【9】:研究発表と質疑応答、討議
【10】:研究発表と質疑応答、討議
【11】:研究発表と質疑応答、討議
【12】:研究発表と質疑応答、討議
【13】:研究発表と質疑応答、討議
【14】:総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

指定の期間内に発表用資料を教育研究コーディネーターに提出のこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 研究発表と議論への参加:60% 最終提出論文:40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

春学期のキリスト教学共同演習1と連続しての履修が望ましい。

作成:2024/10/02
科目コード:NH201

アングリカニズム・エキュメニズム研究

Studies in Anglicanism and Ecumenism
聖公会礼拝とエキュメニズム
Anglican worship and ecumenism

市原　信太郎(ICHIHARA SHINTARO)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH201
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS5813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	後期課程用科目コード:TH311		

授業の目標 / Course Objectives

聖公会はその成立の過程からも、エキュメニズムと深い関わりを持ち、エキュメニカルな場でも重要な役割を果たしてきた。その中で特に、礼拝という観点からエキュメニズムへの関わりを考察する。
The Anglican Church has had a significant relationship with ecumenism, partly because of the process of its establishment, and has also played an important role in the ecumenical scene. In this regard, we will look at its relationship to ecumenism especially from the perspective of worship.

授業の内容 / Course Contents

聖公会礼拝とエキュメニズムの関係について、いくつかの論文や文献を読み学んでいく。
(具体的に読む文献については担当者より提案するが、受講者と相談の上決定する。)
We will read and study some papers and articles on the relationship between Anglican worship and ecumenism.
(The instructor will suggest some documents to read, but this will be decided in consultation with the students.)

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
Introduction
【2】:文献講読と討論
Document reading and discussion
【3】:文献講読と討論
Document reading and discussion
【4】:文献講読と討論
Document reading and discussion
【5】:文献講読と討論
Document reading and discussion
【6】:文献講読と討論
Document reading and discussion
【7】:文献講読と討論
Document reading and discussion
【8】:文献講読と討論
Document reading and discussion
【9】:文献講読と討論

Document reading and discussion
【10】: 文献講読と討論
Document reading and discussion
【11】: 文献講読と討論
Document reading and discussion
【12】: 文献講読と討論
Document reading and discussion
【13】: 文献講読と討論
Document reading and discussion
【14】: まとめ
Closing

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

聖公会礼拝を体験したことがない学生には、実際に礼拝(特に日曜日の聖餐式)に参加してみることを強く勧める。
I strongly encourage them to actually attend a service (especially the Sunday Eucharist).

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業への出席と議論への参加:50% 授業中の発表と資料:50%

テキスト / Textbooks

読む文献に応じて適宜指定する。
To be specified as needed depending on the documents to be read.

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介する。
The information will be presented in class as needed.

その他 / Others

受講者との協議により、授業内容は適宜変更することがある。
The course outline is subject to change in consultation with students.

作成:2024/10/02
科目コード:NH202

キリスト教倫理学研究

Studies in Christian Ethics
いのちをめぐる課題への呼応

梅澤　弓子(UMEZAWA YUMIKO)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH202
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS5813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	後期課程用科目コード:TH312		

授業の目標 / Course Objectives

差し迫る「いのち」をめぐる課題を受けて、キリスト教倫理学からの応答の可能性を考える。
We will consider what answers from Christian ethics are possible regarding current ethical and bioethical questions.

授業の内容 / Course Contents

「いのち」をめぐって提起されている諸課題のうちから各参加者が自身の関心に応じて一つのテーマを取り上げて発題し、その後に全員で議論を行う。授業の進め方については、参加者と相談の上、柔軟に対応したい。
Each participant will select one subject matter they would like to work on regarding ethical and bioethical questions, present topics and debate with all participants.
I plan to be flexible about the course progression and negotiate with all participants.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:動機の確認・問いの共有・テーマの選定
【3】:試行と考究 1　参加者による発表と討議
【4】:試行と考究 2　参加者による発表と討議
【5】:試行と考究 3　参加者による発表と討議
【6】:試行と考究 4　参加者による発表と討議
【7】:中間ふりかえり　問題の整理
【8】:試行と考究 5　参加者による発表と討議
【9】:試行と考究 6　参加者による発表と討議
【10】:試行と考究 7　参加者による発表と討議
【11】:試行と考究 8　参加者による発表と討議
【12】:試行と考究 9　参加者による発表と討議
【13】:総括 1
【14】:総括 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自が、自身の参加動機を事前に自問し、明確化しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表内容:40% 討議への参加:30% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:NH203

現代神学思想研究

Studies in Modern Theological Thought
非・自由主義的な世界と文明の擁護者としてのユダヤ・キリスト教

加藤　喜之(KATO YOSHIYUKI)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH203
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS5813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	後期課程用科目コード:TH313		

授業の目標 / Course Objectives

現代の欧米社会におけるキリスト教と政治の関係を分析することを目標とする。後期の宗教史・宗教学演習と連動しており、一年を通して、この分野における基本的な論文をともに読み、議論をしていく。
The goal is to analyze the relationship between Christianity and politics in contemporary Western societies. The course is linked to History of Religion and Seminar in Religious Studies in the fall semester, and we will read and discuss basic papers in this field together throughout the year.

授業の内容 / Course Contents

2010 年ごろを境に欧米社会では、宗教を全面に押し出した右派政党が政治の表舞台に立つようになってきた。極右政党は常に一定数存在していたが、フランスの国民連合やドイツの AfD(ドイツのための選択肢)のように、有権者の 15%以上がこうした政党を支持するようになってきているのだ。Brexit を成し遂げたナイジェル・ファランジ率いるイギリス独立党の活躍はいうまでもない。ハンガリーやポーランドにおいては、フィデスや PiS(法と正義)が政権与党となった。2020 年代に入ってもその勢いは衰えず、イタリアでもメローニ率いる「イタリアの同胞」は政権与党となり、オランダではウィルダース率いる自由党が総選挙で第一党となった。
こうした政党は大衆に直接語りかける術を熟知しているようにみえる。グローバル化の恩恵を受けられず、疲弊してしまった大衆にナショナリズムを焚き付けることで、勢力を拡大してきた。そのナショナリズムの中心に宗教を見出すことができる。
ヨーロッパ社会は世界のどこよりも世俗化が進んだ地域だといわれているが、そうした国々で宗教復興が起こっているのだろうか？観光客しか訪れなくなった教会に今いちど若者が詰めかけているのだろうか？そうではない。世俗化は進むばかりである。唯一、国民の九割近くがカトリック教徒を自認していたポーランドでさえも、その数はこの 10 年で激減している。だとするとどのようなかたちで宗教は、政治、とりわけナショナリズムを鼓舞するというのだろうか？
こうした政党によると、宗教、すなわちキリスト教こそが自国の文明的な基盤だという。とくに、ムスリム系の移民が増え、欧州のイスラーム化が恐れられる時代において、アイデンティティの源泉としてのキリスト教が高く掲げられる。本演習では、この欧米文明の擁護者、アイデンティの源泉としてのキリスト教に注目し、従来のキリスト教理解との比較しつつ、現代欧米社会における宗教と政治の関係を明らかにしていきたい。

After around 2010, right-wing parties with an all-encompassing religious agenda began to take center stage in politics in Western societies. There have always been a certain number of far-right parties, but now more than 15% of voters support them, as in the case of France's Rassemblement National and Germany's AfD (Alternative für Deutschland), not to mention the success of the UK Independence Party led by Nigel Farang in achieving Brexit. In Hungary and Poland, Fidesz and PiS (Law and Justice) became the governing parties; in Italy, Meloni's Fratelli d'Italia became the governing party; and in the Netherlands, Wilders' Partij voor de Vrijheid became the leading party in the general elections.

These parties seem to know how to speak directly to the masses. They have expanded their power by inciting nationalism among the masses, who have grown weary of not being able to enjoy the benefits of globalization. Religion can be found at the heart of this nationalism.
European societies are said to be the most secularized regions in the world, but is there a religious revival taking place in these countries? Are young people once again flocking to churches that are no longer frequented only by tourists? Not at all. Secularization is only increasing. Even in Poland, where nearly 90% of the population used to identify themselves as Catholics, the number of Catholics has declined dramatically in the past decade. In what way, then, does religion inspire politics, especially nationalism?
According to these parties, religion, or Christianity, is the civilizational foundation of their countries. Especially in an era of increasing Muslim immigration and fears of the Islamization of Europe, Christianity as a source of identity is held in high regard. In this seminar, we will focus on Christianity as the defender of Western civilization and the source of identity, and compare it with the conventional understanding of Christianity to clarify the relationship between religion and politics in contemporary Western societies.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション
【2】:論文 1
【3】:論文 2
【4】:論文 3
【5】:論文 4
【6】:論文 5
【7】:論文 6
【8】:リーディングウィーク
【9】:論文 7
【10】:論文 8
【11】:論文 9
【12】:論文 10
【13】:論文 11
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎週課題となるテクストを参加者全員が読み、その内容のまとめを論理的な文章で作成する。その文章をもとに、議論を行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 課題のまとめ:40% 議論への参加:20% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

授業時に適宜指示される。

参考文献 / Readings

授業時に適宜指示される。

作成:2024/10/02
科目コード:NH204

古代イスラエル研究

Studies in Ancient Israel
歴史のイスラエルと聖書のイスラエル

杉江　拓磨(SUGIE TAKUMA)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH204
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS5813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	後期課程用科目コード:TH314		

授業の目標 / Course Objectives

キリスト教の基礎をなす旧約聖書／ヘブライ語聖書の内容や特質をその歴史的背景にもとづいて理解する。
各自が関心をもつ主題について調査し，そこで得た知識から自分自身の見解を構築する論理的思考力を身につける。
Students will be able to understand the characteristics of the Hebrew Bible/Old Testament based on its historical contexts, and develop their own view by investigating topics of interest.

授業の内容 / Course Contents

旧約聖書／ヘブライ語聖書は古代イスラエルの歴史を扱う書物であるとしばしば言われる。しかし聖書が語る内容は実際の歴史そのものではない。聖書が描くイスラエルの民の物語は，イスラエルおよびユダ両王国の民とその祖先・末裔の経験を素材にしつつ，聖書の著者が創作した構築物として理解すべきである。この授業では，前者の聖書が描くイスラエルを「聖書のイスラエル」，そのモデルとなった後者の歴史上の人々を「歴史のイスラエル」とそれぞれ呼んで区別する。その上で，「歴史のイスラエル」について何が分かり，何が分からないか，そして，聖書の著者がどのような立場や関心から「聖書のイスラエル」を生み出したかを考察する。
授業は科目担当者による解説も交えるが，履修者の発表と参加者全員の討論を中心に進める。
The Hebrew Bible/Old Testament is often said to be a book telling about the history of ancient Israel. However, what the Bible tells us is somewhat different from the historical reality. The Israelite people depicted in the Bible should be understood as a literary construct created by the biblical authors based on the experiences of the residents of the kingdoms of Israel and Judah and their ancestors as well as descendants. In this course, Israel in the biblical tradition (the "biblical" Israel) is distinguished from the Israelite and Judahite people in history (the "historical" Israel). Given this distinction, we investigate what we know and what we do not know about the "historical" Israel, and how the biblical writers created the "biblical" Israel.
The classes consist of the instructor's lecture, the students' presentations and discussions by the participants.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション
【2】:「イスラエル(人)」とは何か？
【3】:「歴史のイスラエル」を知る手がかり:考古学・碑文・聖書
【4】:「歴史のイスラエル」前史:前2千年紀末までの南レヴァントと周辺世界
【5】:「歴史のイスラエル」の歩み(1):前2千年紀末
【6】:「歴史のイスラエル」の歩み(2):前 10～8世紀
【7】:「歴史のイスラエル」の歩み(3):新アッシリア時代(前8～7世紀)
【8】:「歴史のイスラエル」の歩み(4):新バビロニア時代(前6世紀)
【9】:「歴史のイスラエル」の歩み(5):ペルシア時代(前5～4世紀)

【10】:文献としての聖書:言語・文字・文書作成および管理
【11】:「聖書のイスラエル」の成り立ち(1):新アッシリア時代(前8～7世紀)
【12】:「聖書のイスラエル」の成り立ち(2):新バビロニア時代(前6世紀)
【13】:「聖書のイスラエル」の成り立ち(3):ペルシア時代(前5～4世紀)
【14】:総括:これまでの研究成果と今後の課題

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

指定するテキストや配付資料を読み込むこと。
自分が関心をもった主題について調査すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 発表(複数回):50% 授業への積極的参加・発言:20% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

必要に応じて別途指示する。

参考文献 / Readings

山我哲雄『聖書時代史 旧約篇』岩波書店 2003 9784006000981
I. フィンケルシュタイン／N. A. シルバーマン(越後屋朗訳)『発掘された聖書:最新の考古学が明かす聖書の真実』教文館 2009 9784764272828
K. シュミート(山我哲雄訳)『旧約聖書文学史入門』教文館 2013 9784764273719
Reinhard G. Kratz Historical and Biblical Israel: The History, Tradition, and Archives of Israel and Judah Oxford University Press 2015 9780198728771
Lester L. Grabbe Ancient Israel: What Do We Know and How Do We Know It? rev. ed. Bloomsbury 2017 9780567670434
ほかは必要に応じて別途指示する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

ヘブライ語聖書／旧約聖書に関する基礎的な知識を必要とする。

作成:2024/10/02
科目コード:NH205

原始キリスト教研究

Studies in Early Christianity
「テサロニケの信徒への手紙一」釈義

吉田　忍(YOSHIDA SHINOBU)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH205
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS5813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	後期課程用科目コード:TH315		

授業の目標 / Course Objectives

パウロ書簡を原典テクストから釈義することで、釈義の基本を学ぶ。
We will study the basics of exegesis by interpreting the First Epistle to the Thessalonians.

授業の内容 / Course Contents

発表者は、注解書や論文等を参考にしつつ担当箇所の訳および釈義を作成し、それを発表する。その後、参加者全員による検討を行う。
Presenters will present a translation and exegesis of their assigned part done while consulting commentaries and academic papers. A discussion will be held following this with all participants.

授業計画 / Course Schedule

【1】:ガイダンス
【2】:釈義:テサロニケの信徒への手紙一 2 章 17-20 節(1)
【3】:釈義:テサロニケの信徒への手紙一 2 章 17-20 節(2)
【4】:釈義:テサロニケの信徒への手紙一 3 章 1-5 節(1)
【5】:釈義:テサロニケの信徒への手紙一 3 章 1-5 節(2)
【6】:釈義:テサロニケの信徒への手紙一 3 章 6-10 節(1)
【7】:釈義:テサロニケの信徒への手紙一 3 章 6-10 節(2)
【8】:釈義:テサロニケの信徒への手紙一 3 章 11-13 節
【9】:釈義:テサロニケの信徒への手紙一 4 章 1-2 節
【10】:釈義:テサロニケの信徒への手紙一 4 章 3-8 節(1)
【11】:釈義:テサロニケの信徒への手紙一 4 章 3-8 節(2)
【12】:釈義:テサロニケの信徒への手紙一 4 章 9-12 節(1)
【13】:釈義:テサロニケの信徒への手紙一 4 章 9-12 節(2)
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

発表を担当する者は他の参加者が担当する注解書全てに目を通し、また、必要であれば他の注解書および論文等を参考にしつつ、担当箇所の翻訳および釈義を行い、レジュメを作成する。また、参加者全員分のコピーも作成し、発表時に配布する。
他の参加者は各自、担当する注解書を読んで来る。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 研究発表(複数回):60% 授業への参加:40%

テキスト / Textbooks

Nestle/Aland Novum Testamentum Graece (28. rev. Aufl.) Deutsche Bibelgesellschaft 2012 9783438051400
必要部分のプリントアウトを配布します。

参考文献 / Readings

J. A. D. Weima 1-2 Thessalonians Baker Academic 2014 9780801026850
G. S. Shogren 1 & 2 Thessalonians Zondervan 2012 0310243963
C. Wanamaker The Epistles to the Thessalonians: A Commentary on the Greek Text Eerdmans 2013 9780802870926
A. J. Malherbe The Letters to the Thessalonians Yale University Press 2004 300139845
E. J. Richard First and Second Thessalonians Liturgical Press 2007 814659748
F. F. Bruce 1 and 2 Thessalonians Zondervan 2015 310521998
G. D. Fee The First and Second Letters to the Thessalonians Eerdmans 2009 802863620

キリスト教史研究

Studies in History of Christianity

Ecclesiae Patres et Matres, Magistri et Magistrae, qui depositum fidei de manu in manum ad seram usque posteritatem transferebant.

阿部　善彦／若松　功一郎(ABE YOSHIHIKO／WAKAMATSU KOICHIRO)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH206
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS5813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	後期課程用科目コード:TH316		

授業の目標 / Course Objectives

キリスト教史におけるキリスト教信仰の伝統について学ぶ。それは単なる教会史、教理史の研究以上の現代的意義を有する学問実践となるインパクトを本来は備えている。というのも、現在の様々に複雑化した世界状況において、キリスト教が求められている役割は大きい。しかしながら、現在のキリスト教世界もまた、内部において対立、分裂状況を含んでおり、平和と一致に向けた歩み寄りが大きな課題となっている。そのような時代状況中で、様々な教団教派の歴史と伝統、それぞれの固有性に立脚しつつも、もう一度自らのよって立つところの源泉を再確認することは、自己理解及び相互理解を刷新、深化せしめるとともに、そこに、照古照今、新たにして、古き、キリスト教の対話的相互理解の基盤を探り当てることを可能とするものである。

We will learn about the tradition of Christian faith in Christian history. It originally had more significance from its academic applications with modern sense than simply researching the history of the church and its doctrine, because the role sought for Christianity in the current complex world situation is broad. However, in the current Christian world, there are internal rivalries and divisions. It is a big challenge to move forward with peace. In a situation like that, by reconfirming the origin of where we stand based on the history and tradition of various religious groups and denominations as well as their respective characteristics, it is possible to reform and deepen self-understanding and mutual understanding and at the same time, by referring to both the past and present as well as searching and discovering the foundation of Christian interactive mutual understanding.

授業の内容 / Course Contents

上記の授業の目的を達すべく、キリスト教史、教会史に関するテキスト、また、キリスト教思想家のテキストの神学・哲学的思想内容について理解を深める。内容は受講者の様子によって変更される場合がある。テキストは日本語訳のあるものを取り上げる予定。今年度は、近代批判の観点から中世・近世キリスト教を問い直すこととし、神学的知のあり方をめぐる問題を取り扱う予定。

We will deepen our understanding of theological and philosophical thought from the texts of Christian thinkers to achieve the above purpose of the course. The content may change depending on the situation of the students. I plan to use Latin texts that have Japanese translations.

授業計画 / Course Schedule

【1】:ガイダンス
【2】:イントロダクション
【3】:問題設定について
【4】:テキスト読解に向けて

【5】:テキストにもとづく検討1
【6】:読解
【7】:討議
【8】:テキストにもとづく検討2
【9】:読解
【10】:討議
【11】:テキストにもとづく検討3
【12】:読解
【13】:討議
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習復習については授業内で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業に関する活動(予習復習そのほか課題の提出と内容の精度を含む):100%

テキスト / Textbooks

大森正樹『グレゴリオス・パラマス研究』 創文社 2000 9784423171226
パラマス『聖霊と神のエネルゲイア』 知泉書館 2023 9784862853783
大森正樹『観想の文法と言語』 知泉書館 2017 4862852653
土橋茂樹『教父哲学で読み解くキリスト教』 教文館 2023 9784764261761
田島・阿部『テオーシス』 教友社 2018 4907991401
テキストの購入は各自の判断に任せる。使用する文献資料は授業内で指示する。

参考文献 / Readings

Michel Henry Können des Lebens: Schlüssel zur radikalen Phänomenologie ALBER 2017 9783495489253
D. Mieth Ketzerflammen in Paris: Marguerite Porete, Meister Eckhart und die Intrigen der Inquisition Der Blaue Reiter 2024 9783933722881
J. Brachtendorf Augustinus de Genesi Ad Litteram Brill Schoningh 2021 9783506791283
Maine de Biran Die innere Offenbarung des ″geistigen Ich″: Drei Kommentare zum Johannes-Evangelium Echter 2010 9783429033118
Bernard Mcginn The Persistence of Mysticism in Catholic Europe: France, Italy, and Germany, 1500-1675 Herder 2023 9780824598860
Meister Eckhart Meister Eckhart. Deutsche Werke Band 4,3 Kohlhammer 2024 9783170437890
M. Roesner Hermeneutik des Lebens Peeters 2022 9789042943209

作成:2024/10/02
科目コード:NH207

キリスト教美術研究

Studies in Christian Arts
中世ロマネスク時代の巡礼路聖堂の彫刻、壁画

中西　麻澄(NAKANISHI MASUMI)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH207
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS5813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	後期課程用科目コード:TH317		

授業の目標 / Course Objectives

西欧中世、特にロマネスク時代は大規模な彫刻や壁画が、聖大ヤコブの墓所のあるサン・ティアゴ・デ・コンポステラ聖堂への巡礼路沿いの教会堂に多数作られた。それらの形象と『聖書』の内容を照らし合わせ、キリスト教図像学の理解を深める。

During the Western Middle Ages, especially the Romanesque period, many large-scale sculptures and mural paintings were created in churches along the pilgrimage route to Santiago de Compostela, where the tomb of St. James the Greater is located. We compare these images with the texts of the Bible and deepen your understanding of Christian iconography.

授業の内容 / Course Contents

ロマネスク時代(12 世紀頃)の、サン・ティアゴへの巡礼路沿いのフランスやスペインの聖堂壁画や彫刻を対象とする。時代背景とともに解説し、それら図像と『聖書』のテキストとを比較考察する。

This seminar focuses on the mural paintings and sculptures of churches in France and Spain along the pilgrimage route to Santiago de Compostela from the Romanesque period (around the 12th century). We will explain the historical background and compare these images with the text of the Bible.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション
サン・ティアゴ・デ・コンポステラへの巡礼路教会、ロマネスク美術概観
【2】:レオン、サン・イシドーロ聖堂(1)壁画:《荘厳のキリスト》
モワサック、サン・ピエール聖堂(1)、南扉口彫刻:《荘厳のキリスト》
ベルゼ・ラ・ヴィル聖堂、アプシス壁画:《トラディシオ・レギス》
【3】:サン・サヴァン聖堂、身廊壁画:《創世記》
オータン、サン・ラザール聖堂(1)、楣(まぐさ)彫刻:《エヴァ》
【4】:レオン、サン・イシドーロ聖堂(2)壁画:《受胎告知》《羊飼いへのお告げ》《幼児虐殺》
オータン、サン・ラザール聖堂(2)柱頭彫刻:《東方の三博士》
【5】:ヴェズレー、サント・マドレーヌ聖堂(1)彫刻概観、中央柱彫刻:《洗礼者ヨハネ》
【6】:レオン、サン・イシドーロ聖堂(3)壁画:《最後の晩餐》《磔刑》
シャルリウ、サン・ピエール聖堂扉口彫刻:《最後の晩餐》
【7】:トゥールーズ、サン・セルナン聖堂、扉口彫刻:《昇天》
サント・ドミンゴ・デ・シロス聖堂、回廊彫刻:《トマスの不信》
【8】:ヴェズレー、サント・マドレーヌ聖堂(2)扉口彫刻:《聖霊降臨》
【9】:ヴェズレー、サント・マドレーヌ聖堂(3)扉口彫刻:《聖ペテロと聖パウロ》

【10】:ヴェズレー、サント・マドレーヌ聖堂(4)扉口彫刻:《月暦図と黄道十二宮》
レオン、サン・イシドーロ聖堂(4)壁画:《月暦図》
【11】:コンク、サント・フォワ聖堂(1):《聖遺物箱(サント・フォワ像)》
サン・ティアゴ・デ・コンポステラ聖堂(1)、扉口彫刻:《栄光の門》、巡礼の道
【12】:コンク、サント・フォワ聖堂(2)扉口彫刻:《最後の審判》
【13】:モワサック、サン・ピエール聖堂(2)、中央柱彫刻:《エレミア像》
サン・ティアゴ・デ・コンポステラ聖堂(2)、中央柱彫刻:《聖大ヤコブ像》
〔次のゴシック時代へ〕シャルトル大聖堂、人像円柱:預言者像
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

図書館で美術全集を見たり、展覧会鑑賞をするなど、積極的に美術作品にふれる努力をしてください。
授業で扱った作品に関する『聖書』のテキストを読み返したり、図像学辞典を見直したりして授業内容の理解を深めるようにしてください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業参加度:40% 授業内課題(複数回):60%

テキスト / Textbooks

テキストや資料は授業内で配布する。

参考文献 / Readings

授業中にその回の内容に応じた参考図書を紹介する。

作成:2024/10/02
科目コード:NH208

比較宗教研究

Studies in Comparative Religion
宗教学的キリスト教研究の可能性

久保田　浩(KUBOTA HIROSHI)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH208
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS5813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	後期課程用科目コード:TH318		

授業の目標 / Course Objectives

「宗教」という現象への宗教学的アプローチとキリスト教学的アプローチは、分析上のどのような視座を相互に共有しているのだろうか。あるいは理論的・方法論的な観点から見て、両者の間にはいかなる差異が存在するのであろうか。昨今、学際的な志向が顕著となりつつある宗教研究における方法論的・理論的議論を介して、キリスト教研究が抱える問題点ならびに可能性を照射し、各自の具体的な研究活動における学問論的反省の重要性を認識する。
What analytical perspectives can Religious Studies and Christian Studies share with regard to academic approaches to "religion(s)", or what methodological and theoretical differences can be discerned between them? We will look at the problems and potential of Christian Studies, while engaging with recent methodological and theoretical debates in Religious Studies, which are increasingly inclined towards interdisciplinarity. In this way, we will understand the importance of academic self-reflection in the practice of participants' concrete research.

授業の内容 / Course Contents

宗教研究は 19 世紀中葉以降、宗教現象や宗教システムを「学問的」(「非神学的」、「非宗派的」)に論じることを目的として掲げた比較的若い学問分野である。これは西洋の文脈において、「宗教」を論じる学問としての自己理解を確立していた「神学」との間に対象領域画定を巡る問題が生起せざるを得なかったということを意味している。こうした緊張関係の中に当初から位置し続けた宗教研究が、その後展開してきた(特に 20 世紀最後の四半世紀以降の)方法論・理論を考察することによって、それらが現在のキリスト教研究に対して果たしうる貢献の可能性と、宗教研究・キリスト教研究の両者が抱える学問論的問題を明らかにする。本授業では、文献(主に英語文献)の講読とそれに基づく発表・議論を行う。
Religious Studies is a relatively young discipline that emerged after the mid-19th century with the aim of analyzing religious phenomena and systems in an "academic" (i.e. "non-theological" or "non-denominational") way. This means that, in the Western context, a problem had to arise between "Theology" and "Religious Studies" with regard to the objects of study, since Theology saw itself as the only discipline qualified to deal with "religion". We will evaluate the methodologies and theories that "Religious Studies" has developed (especially since the last quarter of the 20th century) and highlight their possible contributions to contemporary "Christian Studies", as well as the scholarly problems that concern both "Religious Studies" and "Christian Studies". In this course we will read literature (mainly in English) and hold presentations and debates on it.

授業計画 / Course Schedule

【1】:導入――「宗教」研究と「キリスト教」研究
【2】:講読・議論――「神学」と「学問的神学」
【3】:講読・議論――「学問」を超える「神学」
【4】:講読・議論――「学問的神学」の歴史と「宗教学」の成立(1)
【5】:講読・議論――「学問的神学」の歴史と「宗教学」の成立(2)

【6】:講読・議論――近代の大学制度における「神学」と「宗教学」(1)
【7】:講読・議論――「近代の大学制度における「神学」と「宗教学」(2)
【8】:講読・議論――「神学」と「宗教学」の差異(1)
【9】:講読・議論――「神学」と「宗教学」の差異」(2)
【10】:講読・議論――「神学」と「宗教学」の統合？(1)
【11】:講読・議論――「神学」と「宗教学」の統合？(2)
【12】:講読・議論――宗教学的概念としての「神学」
【13】:講読・議論――「神学」と「宗教学」を超えて(1)
【14】:講読・議論――「神学」と「宗教学」を超えて(2)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講読テクスト箇所の入念な下調べ。発表に向けてのレジュメ等の準備。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 複数回の発表:60% 議論への参加:40%

テキスト / Textbooks

初回授業時に教室で、あるいは授業開始前に Canvas LMS 上で、講読文献(のコピー)を配布する。

参考文献 / Readings

Eric J. Sharpe Comparative Religion. A History, 2nd. ed. Duckworth 1986
Jaques Waardenburg (ed.) Classical Approaches to the Study of Religion, vol. 1 Mouton 1974
John Hinnells (ed.) The Routledge Companion to the Study of Religion, 2nd ed. Routledge 2010
Willi Braun et. al. (eds.) Guide to the Study of Religion Continuum 2000
Mark C. Taylor (ed.) Critical Terms for Religious Studies University of Chicago Press 1998
George D. Chryssides et. al. (eds.) The Study of Religion: An Introduction to Key Ideas and Methods Bloomsbury 2013
その他、授業時に適宜紹介される。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

学部において、「宗教学」「宗教史(学)」「比較宗教学」「宗教…学」「…教概論」等の、諸宗教もしくは宗教学に関連する科目を履修していることが望ましいが、必須ではない。

その他 / Others

初回に発表担当回を決定する。

アジア・キリスト教研究

Studies in Christianity in Asia
明治期日本のプロテスタント古典の再考
A Reconsideration of Japanese Protestant Classics of the Meiji Period

ゾンターク, M(SONNTAG MIRA)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH209
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS5813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	後期課程用科目コード:TH319		

授業の目標 / Course Objectives

近年発表された研究文献を参考にしながら、明治期日本に刊行された重要なプロテスタント著作を精読し、その文脈とそれによって引き起こされた言説を思想史的観点から検討・考察する。
While consulting recently published research, we will closely examine important Japanese Protestant works from the Meiji period, further analyse and consider their context and the discourses that were triggered by these works from the perspective of history of thought.

授業の内容 / Course Contents

履修者と相談の上、明治期のプロテスタント著作からいくつかを選定して読み込んでいく。また討議を通してその著作とそれに含まれている論点・主張の近代日本プロテスタント思想史的意義を問う。

In consultation with the course participants a few Protestant works from the Meiji period will be selected for thorough reading. During class discussions we will assess the impact of arguments and propositions contained in those works on the intellectual history of modern Japan.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション:日程確認、役割分担など
【2】:文献紹介・考察の発表1
【3】:文献紹介・考察の発表2
【4】:文献紹介・考察の発表3
【5】:文献紹介・考察の発表4
【6】:文献紹介・考察の発表5
【7】:文献紹介・考察の発表6
【8】:文献紹介・考察の発表7
【9】:文献紹介・考察の発表8
【10】:文献紹介・考察の発表9
【11】:文献紹介・考察の発表10
【12】:文献紹介・考察の発表11
【13】:文献紹介・考察の発表12
【14】:総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

文献の精読・まとめ・考察の準備

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席, 議論への参加状況:40% 複数回の発表:60%

テキスト / Textbooks

テキストは pdf として提供される。

参考文献 / Readings

授業時に提示する。

作成:2024/10/02
科目コード:NH210

フィールドスタディ 1

Field Studies 1
「ともに生きる」ことの思想と実践

金 迅野(KIM SHINYA)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH210
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS5813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	後期課程用科目コード:TH320		

授業の目標 / Course Objectives

「人権」、「多文化共生」などの概念の成り立ちについて理解し、「共に生きる」ことを阻害する事態はなぜ生じるのか、それらを克服するためにそれらの概念がフィールド/実生活のなかでどのように活かされうるかを考察する。
We will learn the concept of “human rights” and “multi-culturalism” and consider what disturbs “co-living”, and how to overcome these obstacles.

授業の内容 / Course Contents

「人権」、「多文化共生」などの概念をめぐる様々な課題と論考について理解を深めると同時に、「フィールド/生活世界」で起きたこと、起きていることの断片を理解し、生じている矛盾や具体的な個が背負う困難を克服するためのさまざまな人びとの努力やその背後に横たわる個人の「声」に耳をすませる。適宜、キリスト教「界」の思考についても紹介する。学生は、テクストに基づき、あるいはそれぞれの関心に基づいて「ともに生きる」ことに関する発表をおこなう。
We will cover some basic arguments on “human rights” and “multi-culturalism.” We will also learn past and present incidents in the field of human rights and multi-culturalism, particularly focusing on the voices of individuals who face difficulties and contradictions and how they overcome those situations. We will introduce some Christian ideas as appropriate. Students are required to make presentations based on their own interests.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション:ゲームを通して「違い」を考える
【2】:この時代の際(edge)を生きる①
【3】:この時代の際(edge)を生きる②
【4】:豊かさの起源①
【5】:学生の発表
【6】:豊かさの起源②
【7】:学生の発表
【8】:根っこから引き剥がされるという経験①
【9】:根っこから引き剥がされるという経験②
【10】:学生の発表
【11】:根っこから引き剥がされるという経験③
【12】:「われわれ」とは誰か?
【13】:声をあげる伝統
【14】:ふりかえり/ヘイトをくぐりぬけるために

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、文献資料だけでなく、映像作品などを含めた資料を、授業内で広く紹介する予定。紹介する参考文献、資料を盛り込んだレジュメは、前日までに Canvas LMS にアップするので、あらかじめ読み込んでおくことが望ましい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 出席および授業参加態度:70% 発表:30%

テキスト / Textbooks

その都度提示する。

参考文献 / Readings

カロリン・エムケ『憎しみに抗って』 みすず書房 2018 9784622086703
塩原良和『共に生きる』 弘文堂 2012 4335501242
宮地尚子『環状島=トラウマの地政学』 みすず書房 2007 4622087383
G・アガンベン『ホモ・サケル』 以文社 2002 475310253
参考文献は、基本的に授業内で提示する。以上のもの以外にも、広く、コミック、文学作品、写真なども適宜、参考「文献」として広く紹介する予定。

作成:2024/10/02
科目コード:NH211

フィールドスタディ 2

Field Studies 2
多重・多層の危機の「同時代」を生きることの意味を考える

金 迅野(KIM SHINYA)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH211
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS5813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	後期課程用科目コード:TH321		

授業の目標 / Course Objectives

現代社会に生きながら「生きにくさ」を感じないことはまれなのではないか。「生きにくさ」の淵源はさまざまに把握しうるが、学生が自分なりの井戸をフィールド/生活世界の中に発見し、多重・多層の危機の時代の「生きにくさ」に対処すべき端緒を発見することの一助になることが本授業の目標である。適宜、キリスト教「界」の思考や実践についても紹介、議論したい。

We may sometimes feel difficulties in life especially in the days of the pandemic. In this seminar, we try to make students find a clue to confront the difficulties in their own fields. Some examples of Christian ideas or practices will be introduced as appropriate.

授業の内容 / Course Contents

「近代」が成立する過程で生じたいくつかの出来事にスポットを当てながら、近代の「光」と「影」が生じたのはなぜなのか、適宜キリスト教界の思想や実践にもふれながら、「光」や「影」は誰にとっての「光」や「影」であったのかを理解する。そのうえで、「影」の部分である「分断」、「格差」、「憎しみ」をくぐりぬけてどのように「和解」(自分との和解を含めて)をパンデミックのフィールド(現実)のなかに見出しうるのかを考える。適宜、キリスト教「界」の思考や実践についても紹介、議論したい。学生は、議論しつつ湧出したテーマに即して発表する。

Focusing on some events that occurred during the process of the establishment of “modernity,” we will consider why modernity generates the light and the shade, and the light for whom and the shade for whom. We will also pursue how we overcome and reconcile “shade”, ther is, segmentation, disparity, hate, and so on in the concrete living fields. Some examples of Christian ideas or practices will be introduced as appropriate. Students will make presentations based on the assigned theme.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション
【2】:「近代」という問題の素描
【3】:帝国の眼差しを読む
【4】:帝国の眼差しとキリスト教① 学生の発表
【5】:帝国の眼差しとキリスト教②学生の発表
【6】:ふれるべき「日本」の根源①
【7】:ふれるべき「日本」の根源②
【8】:ふれるべき「日本」の根源③
【9】:ふれるべき「日本」の根源④
【10】:むきだしの生①
【11】:むきだしの生②

【12】:「共感」をめぐるディスカッション
【13】:「人間の条件」について
【14】:「我に触れるな」／「亡命」の経験の痕跡＋ふりかえり

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、文献資料だけでなく、コミック、文学作品、映像作品などを含めた資料を、授業内で広く紹介する予定。紹介する参考文献、資料を盛り込んだレジュメは、前日までに Canvas LMS にアップするので、あらかじめ読み込んでおくことが望ましい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 出席および授業参加態度:70% 発表:30%

テキスト / Textbooks

その都度提示する。

参考文献 / Readings

西谷修ほか『20 世紀の定義4』岩波書店 2001 4000265547
H・アーレント『全体主義の起原2』みすず書房 2003 4622086263
芦名定道『現代神学の冒険』新教出版社 2020 9784400327684
金澤周作『チャリティの帝国』岩波新書 2021 9784004318804
鈴木直『アディクションと金融資本主義の精神』みすず書房 2023 9784622096047
上記以外にも、毎回、広く、文献資料だけでなく、コミック、文学作品、映像作品などを含めた資料を、授業内で広く紹介する予定。

作成:2024/10/02
科目コード:NH212

キリスト教音楽研究1

Studies in Christian Music 1
ローマ・カトリック教会における典礼と音楽

米沢　陽子(YONEZAWA YOKO)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH212
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS5813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	学部科目 AA109「演習A9」と併置 チャペル会館2F　マグノリアルーム 後期課程用科目コード:TH322		

授業の目標 / Course Objectives

ローマ・カトリック教会の典礼の二本柱であるミサと聖務日課の概要と、典礼に用いられる音楽について理解を深める。典礼音楽がどのようにして生まれ、歌い継がれてきたのかを学び、典礼における音楽が果たす意味について自ら説明できる。また、その学びを自分が関わる教会の典礼・礼拝に活かすことができるようにする。

We will deepen our understanding of the two pillars for rituals of the Roman Catholic Church, Mass and Liturgy of the Hours as well as the music used in rituals. We will study how ritual music was born and passed along as well as learn to explain independently the meaning of music in rituals. Moreover, we will use what we learned in the church rituals and worship in which we are involved.

授業の内容 / Course Contents

基本的に講義形式で進めていく。文献講読も行う。西洋音楽の源であるグレゴリオ聖歌にも重点を置き、グレゴリオ聖歌がその後の音楽史にどのような影響を与えたのかを考察していく。各回で扱う音楽作品については可能な限りオリジナル楽譜を紹介し、実際に声に出して歌うことも試みたい。

The course will mostly consist of lectures. We will also place emphasis on Gregorian chants, which are the origin of Western music. We will inquire into how Gregorian chants later influenced music history. We will introduce original scores for the musical pieces taken up each time as much as possible. I would also like to let us try singing the music out loud.

授業計画 / Course Schedule

【1】:旧約聖書の音楽(1)　歌と楽器と踊りによる賛美
【2】:旧約聖書の音楽(2)　詩編①
【3】:旧約聖書の音楽(3)　詩編②
【4】:旧約聖書の音楽(4)　詩編③
【5】:初期キリスト教会における典礼と音楽
【6】:ローマ・カトリック教会における典礼―ミサと聖務日課―
【7】:グレゴリオ聖歌(1)　成立過程とネウマ譜の歴史
【8】:グレゴリオ聖歌(2)　ネウマ譜の読み方／教会旋法について
【9】:ミサ通常文とミサ固有文
【10】:聖務日課(1)修道院の成立とその生活
【11】:聖務日課(2)朝課・賛課・晩課の音楽
【12】:聖母マリアへの祈り

【13】:レクエイム
【14】:グレゴリオ聖歌の伝統と現代／授業内サマーコンサート

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

第1～4回は各自、聖書を持参すること。詩編は「旧約聖書の音楽」の回のみならず、講座全般の学びの礎となるものなので、日頃から読む習慣をつけて授業に臨むことが望ましい。
授業時間外の学習に関する指示は必要に応じて別途指示するが、中世、ルネサンス期の音楽について視聴覚資料等で予備知識を得ておくこと。また予め配布する楽譜を譜読みしておくこと。
「私のイチ押しキリスト教音楽」というプレゼンテーションを課すので準備すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 口頭発表とその準備:30% 授業への参加度:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

特に指定しない

参考文献 / Readings

金澤正剛『キリスト教と音楽―ヨーロッパ音楽の源流をたずねて』音楽之友社 2007 年 9784110588
金澤正剛『中世音楽の精神史―グレゴリオ聖歌からルネサンス音楽へ』河出書房新社 2015 年 9784309413525
水野信男『ユダヤ音楽の歴史と現代』アカデミアミュージック 1997 年 4870170663
寺本まり子『詩篇の音楽―旧約聖書から生まれた音楽』音楽之友社 2004 年 9784276110571
その他、授業中に適宜紹介する

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

賛美歌／聖歌を初見である程度歌える読譜力を持っていることが望ましい。

その他 / Others

講義の中では必要に応じて、パワーポイント、視聴覚資料を適宜活用する。また個々の授業内容については受講生の人数や関心により多少の変更を加えることもある。実際に楽譜を用いて歌うことも多いので、基礎的な読譜力を身につけている学生の受講を歓迎する。学部開設の「演習 A9」との併設科目である。学期末に授業内サマーコンサート、夏合宿中にもコンサートを実施予定である。(歌唱、楽器演奏で参加すること)

注意事項(検索結果画面)

チャペル会館2F マグノリアルーム

作成:2024/10/02
科目コード:NH213

キリスト教音楽研究　2

Studies in Christian Music 2

ドイツ・ルター派のコラールとJ. S. バッハの編曲技法ー声楽作品(カンタータ、受難曲)、オルガン編曲からの考察

米沢　陽子(YONEZAWA YOKO)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH213
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS5813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業60単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	学部科目 AA110「演習A10」と併置 チャペル会館2F　マグノリアルーム 後期課程用科目コード:TH323		

授業の目標 / Course Objectives

ルター派のコラールの歌詞内容を理解し、バッハがカンタータや受難曲、オルガン作品のなかで歌詞の内容をどのように音として描こうとしたかを、楽曲分析を通して説明することができる。

We will understand the lyrics of Lutheran chorales. By analyzing these songs, we will be able to explain how Bach expressed these lyrics using sound with his cantata and Passion music and organ pieces.

授業の内容 / Course Contents

バッハのオルガン・コラール作品を弾く際、オルガニストは解釈の手掛かりをカンタータとコラールの歌詞に求める。バッハのカンタータや受難曲がルター派のコラールを基にして作曲されていることは周知のとおりである。この授業では、同じコラールに基づくカンタータとオルガン編曲を並べて取り上げ、バッハが共通の「素材」を用いてどのような手法で音楽を作り上げていったかを楽曲分析を通して考察する。基本的に講義形式で進めていくが、いくつかのテーマについては受講生に口頭発表を課す予定である。また必要に応じて演奏実践も取り入れる。

An organist seeks hints on how to interpret the cantata and chorale from its lyrics when playing Bach's organ chorales. As you know, Bach's cantatas and Passion music were composed based on Lutheran chorales. In this course, we will take up cantatas and organ compositions based on the same chorale. We will examine with what method Bach used the same "material" to create music by musical analysis. The course will mostly consist of lectures, but I plan to have students give verbal presentations on several topics. In addition, we will also implement musical performances when necessary.

授業計画 / Course Schedule

【1】:ルター派のコラールと教会音楽家J. S. バッハ
【2】:Christ lag in Todesbanden(1)コラール原曲
【3】:Christ lag in Todesbanden(2)カンタータ　BWV4 (復活節第1主日)
【4】:Christ lag in Todesbanden(3)オルガン編曲　BWV 629 他
【5】:Ein feste Burg ist unser Gott(1)コラール原曲
【6】:Ein feste Burg ist unser Gott(2)カンタータ　BWV 80 (宗教改革記念日)
【7】:Ein feste Burg ist unser Gott(3)オルガン編曲　BWV 720
【8】:Nun komm, der Heiden Heiland(1)コラール原曲
【9】:Nun komm, der Heiden Heiland(2)カンタータ　BWV 62(待降節第1主日)
【10】:Nun komm, der Heiden Heiland(3)オルガン編曲　BWV599, 659, 660, 661
【11】:Wachet auf, ruft uns die Stimme (1)コラール原曲

【12】:Wachet auf, ruft uns die Stimme(2)カンタータ BWV140(三位一体後第 27 主日)
【13】:Wachet auf, ruft uns die Stimme(3)オルガン編曲 BWV645
【14】:まとめ ― J. S. バッハが目指した音楽表現とは

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

上記授業で取り上げるコラールの歌詞(ドイツ語)を読み込み、旋律を頭に入れておくこと。その他、必要に応じて別途指示する。予め配布したコラールの楽譜を譜読みしてくること。また必要に応じて楽曲分析の課題・発表を課すこともある。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 口頭発表とその準備:30% 授業への参加度:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

特に指定しない

参考文献 / Readings

マルティン・ゲック『ヨハン・ゼバスティアン・バッハ』 東京書籍 2001 年 4487797195
鈴木雅明『バッハ 神と人とのはざまで』 音楽之友社 2021 年 9784276130197
その他、授業中に適宜紹介する。また『バッハ全集』(小学館)の CD および解説書は重要な資料となるので、受講生は各自の関心に沿って CD を聴き、解説を読み、バッハの音楽への理解を深めることが望ましい。(図書館所蔵)

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

賛美歌／聖歌を初見である程度歌える基礎的な音楽能力を持っていることが望ましい。

その他 / Others

授業で取り上げるコラール(ドイツ語)はクラス全員で歌唱するので、基礎的な読譜力を身につけている学生の受講を歓迎する。またカンタータ、オルガン編曲の回では録音資料、楽譜資料を用いて行う。個々の授業内容については受講生の人数や関心により多少の変更を加えることもある。
「キリスト教音楽に関する文献紹介」というプレゼンテーションを課すので、各自、早めに紹介する本を決定し、準備を進めること。
学部開設の「演習 A10」との併置科目である。

注意事項(検索結果画面)

チャペル会館2F マグノリアルーム

作成:2024/10/02
科目コード:NH301

神学思想演習1

Seminar in Theological Thought 1
現代キリスト教神学思想読解

宮本　新(MIYAMOTO ARATA)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH301
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS6813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

キリスト教神学思想上の基本概念に習熟すること、文献を調べ読み解くこと、そして授業内の発題やディスカッションを通じて神学的コミュニケーションの能力を育むことを目標とします。
This course is aimed at learning the fundamental concepts of Christian theology and thought, by reading theological writings and acquiring skill in theological communication.

授業の内容 / Course Contents

20 世紀から現在にいたる神学思想に関する様々な主題を取り上げ学んでいきます。毎回、関連する神学テキストを読解し、発題や質疑を通じて、より深い理解を目指します。
We will focus on the writings of Christian theology and thought since 1900, research and discuss topics and concepts that appear in contemporary Christianity.

授業計画 / Course Schedule

【1】:序論 「現代神学」とは何か？
【2】:弁証法神学とその周辺(1)
【3】:弁証法神学とその周辺(2)
【4】:苦難と救済
【5】:神学の解放モチーフ(1)
【6】:神学の解放モチーフ(2)
【7】:神学の解放モチーフ(3)
【8】:エキュメニズム(1)
【9】:エキュメニズム(2)
【10】:エキュメニズム(3)
【11】:キリスト教の将来(1)
【12】:キリスト教の将来(2)
【13】:キリスト教の将来(3)
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業で指定・紹介されたテキストと関連するテーマの予習と復習。
特に毎回読む予定のテキストについては関連文献を含めて予習が必要です。

成績評価方法・基準 / Evaluation

レポート試験 :60%
平常点割合 :40% 平常点(授業参加度、授業内発表など):40%

テキスト / Textbooks

芦名定道『現代神学の冒険』新教出版 2020 9784400327684

参考文献 / Readings

適宜、参考文献は紹介します。

その他 / Others

演習形式を基本として講義、発題、ディスカッションなど総合的に進めます。

作成:2024/10/02
科目コード:NH302

神学思想演習2

Seminar in Theological Thought 2
「場／無の神学」再考・深化

鳥居　雅志(TORII MASASHI)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH302
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS6813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

仏教との対話などを通して現代の日本において提唱された「場／無の神学」に着目し、そこで語ろうとしていることをわれわれにとっての問題として考察する。
We will focus on the ″theology of field (/place)/nothingness″ that was advocated in contemporary Japan through dialogues with Buddhism. We will consider what Christian theological thought in Japan attempts to convey, treating its problems as our own.

授業の内容 / Course Contents

「場／無の神学」に深く関係している神学・哲学者による著作などを読み、各参加者が取り組みたいテーマを一つずつ取り上げ、発題してもらい、それについて参加者全員で議論する。
なお、授業の進め方などに関しては、参加者と相談の上、柔軟に対応していく予定である。
We will read the books of (theological) philosophers that are deeply connected with the ″theology of field (/place)/nothingness.″ Each participant will select one subject, present topics and discuss with all participants.
I plan to be flexible about the course progression and negotiate with all participants.

授業計画 / Course Schedule

【1】:導入
【2】:問いの共有
【3】:担当参加者による発表と議論
【4】:担当参加者による発表と議論
【5】:担当参加者による発表と議論
【6】:担当参加者による発表と議論
【7】:担当参加者による発表と議論
【8】:中間の振り返りと問題の整理
【9】:担当参加者による発表と議論
【10】:担当参加者による発表と議論
【11】:担当参加者による発表と議論
【12】:担当参加者による発表と議論
【13】:担当参加者による発表と議論
【14】:総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前に自身の問いを明確にし、自身の発表回でないときにも活発な議論ができるようにしておいて欲しい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 担当発表(複数回):40% 読解・討議への参加:30% 最終レポート割合::30%

発表を行わなかったり、期限内に最終レポートを提出しなかった場合は、成績評価の対象とはなりません。

テキスト / Textbooks

授業時に、参加者と相談の上で決定する。

参考文献 / Readings

必要に応じてその都度指示する。

キリスト教思想史演習

Seminar in History of Christian Thought
愛智の探究構造

阿部　善彦／菊地　智(ABE YOSHIHIKO／KIKUCHI SATOSHI)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH303
授業形態	対面(一部オンライン)	授業形態(補足事項)	オンライン実施回:第11回～第13回
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS6813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業60単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	学部科目 AA218「ラテン語講読2」と併置		

授業の目標 / Course Objectives

キリスト教が生み出す思想とは何か。それを具体的なテキストを通じて、その語りかけるものを聞き、徹底的に思考停止せずに考え抜くことがこの科目の主眼目である。
われわれは歴史的存在であり、今この身において生きている現実と切り離して問うても空虚である。われわれの存在への問い、人間本性への問い、人間の宗教性への問い、そうしたわれわれ自身への問いと密着しながら、探求を進めてゆくことが求められる。したがって借り物の知識ではなく自分でどこまで徹底的に学び考えたかが重要になる。そのために、自らの考えを言葉によって示し、発表、対話、討議をつうじて深めることが求められる。なお内容は受講者の状況などに応じて変更される場合がある。
We will learn about the tradition of Christian thought in Christian history. It originally had more significance from its academic applications with modern sense than simply researching the history of the church and its doctrine, because the role sought for Christianity in the current complex world situation is broad. However, in the current Christian world, there are internal rivalries and divisions. It is a big challenge to move forward with peace. In a situation like that, by reconfirming the origin of where we stand based on the history and tradition of various religious groups and denominations as well as their respective characteristics, it is possible to reform and deepen self-understanding and mutual understanding and at the same time, by referring to both the past and present as well as searching and discovering the foundation of Christian interactive mutual understanding.

授業の内容 / Course Contents

上記の授業の目的を達すべく、キリスト教思想家のテキストの神学・哲学的思想内容について理解を深める。今年度は愛智を取り上げる。内容は受講者の様子によって変更される場合がある。テキストは日本語訳のあるものを取り上げる予定。
We will deepen our understanding of theological and philosophical thought from the texts of Christian thinkers to achieve the above purpose of the course. This year we will treat ″de veritate et verbo″. The content may change depending on the situation of the students. I plan to use texts that have Japanese translations.

授業計画 / Course Schedule

【1】:ガイダンス
【2】:愛智の現代的問題性
【3】:キリスト教によって拓かれる愛智の問題理解の地平
【4】:テキスト読解に向けて
【5】:テキストにもとづく検討1
【6】:読解
【7】:討議

【8】:テキストにもとづく検討2
【9】:読解
【10】:討議
【11】:テキストにもとづく検討3
【12】:読解
【13】:討議
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習復習については授業内で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業に関する活動(予習復習そのほか課題の提出と内容の精度を含む):100%

テキスト / Textbooks

M. Guyon Le Moyen court Éditions Jérôme Million 2021 9782841373987
Di Segni D. Moses Maimonides, Dux neutrorum vel dubiorum, pars I Peeters 2019 9789042940918
Di Segni D. Moses Maimonides, Dux neutrorum vel dubiorum, pars II Peeters 2023 9789042951631
M. Vinzent Tertullian's Preface to Marcion's Gospel Peeters 2016 9789042933200
Hawk-Reinhard D.R. Christian Identity Formation according to Cyril of Jerusalem Peeters 2020 9789042939233
テキストの購入は各自の判断に任せる。このほか使用する文献資料は授業内で指示する。西方ラテンの教父、神学者のテキストをとりあげる。いずれにしても日本語訳のあるものを用いる。(学部ラテン語講読 2 としての受講者には別途指示する)

参考文献 / Readings

Michel Henry Können des Lebens: Schlüssel zur radikalen Phänomenologie Alber 2017 9783495489253
Ulrich von Strassburg De summo bono Felix Meiner 2023 9783787343119
Meister Eckhart The Latin Works: ≪Sermones et Lectiones super Ecclesiastici≫. Sermons and Lectures on Jesus Sirach Peeters 2022 9789042940529
Maine de Biran Die innere Offenbarung des ″geistigen Ich″: Drei Kommentare zum Johannes-Evangelium Echter 2010 9783429033118
Jörgen Vijgen, Piotr Roszak (eds) Reading the Church Fathers with St. Thomas Aquinas Brepols 2022 9782503593203
G. Palamas La Resistance d'Akindynos II Peeters 2006 9042911662
G. Palamas La Resistance d'Akindynos I Peeters 2006 9789042911659

聖書学演習(旧約)1

Seminar in Biblical Studies (Hebrew Bible) 1
申命記史研究
Deuteronomistic History Studies

長谷川　修一(HASEGAWA SHUICHI)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH311
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS6813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	学部科目 AA224「ヘブライ語講読1」と併置		

授業の目標 / Course Objectives

列王記の記述を原語で批判的に読みながら、申命記史研究の実際について学ぶ。
To learn the way in which studies on Deuteronomistic History are conducted through critical reading of the Book of Kings in Hebrew.

授業の内容 / Course Contents

列王記上 16 章以降のヘブライ語テキストを、特に編集史・伝承史的観点から批判的に読み進める。授業は受講者の予習に基づく発表とそれについての全員による議論とで構成される。ヘブライ語で聖書を読めること、英・独語の注解書や学術書・論文を読めることが受講のための必要条件である。
We critically read the First Book of Kings (from Chapter 16) in Hebrew from the viewpoints of redaction history and tradition history. Class consists of participants' well-prepared presentations on the text and discussions on the presentations. Participants are expected to read biblical Hebrew as well as bible commentaries and scholarly works in English and German.

授業計画 / Course Schedule

【1】:列王記下2章(1)(Second Book of Kings 2[1])
【2】:列王記下2章(2)(Second Book of Kings 2[2])
【3】:列王記下2章(3)(Second Book of Kings 2[3])
【4】:列王記下2章(4)(Second Book of Kings 2[4])
【5】:列王記下3章(1)(Second Book of Kings 3[1])
【6】:列王記下3章(2)(Second Book of Kings 3[2])
【7】:列王記下3章(3)(Second Book of Kings 3[3])
【8】:列王記下3章(4)(Second Book of Kings 3[4])
【9】:列王記下4章(1)(Second Book of Kings 4[1])
【10】:列王記下4章(2)(Second Book of Kings 4[2])
【11】:列王記下4章(3)(Second Book of Kings 4[3])
【12】:列王記下4章(4)(Second Book of Kings 4[4])
【13】:列王記下4章(5)(Second Book of Kings 4[5])
【14】:列王記下4章(6)(Second Book of Kings 4[6])

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

履修者には辞書・文法書・コンコーダンス、注解書を用いて次回読むテキストの徹底的な予習をすることが義務づけられる。

Before every class, participants are required to prepare the text thoroughly using dictionaries, grammar books, concordances and commentaries.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表内容(複数回):100%

テキスト / Textbooks

Bible Society Biblia Hebraica Stuttgartensia Amer Bible Society 1997 9783438052223

Biblica Hebraica は毎回持参のこと。

Participants are expected to bring Biblia Hebraica to every class.

参考文献 / Readings

T. C. レーマー『申命記史書―旧約聖書の歴史書の成立』日本基督教団出版局 2008 4818406708

E. ヴュルトワイン『ATD旧約聖書註解8 列王記上』ATD・NTD聖書註解刊行会 2013 9784901434072

J. A. Montgomery A Critical and Exegetical Commentary on the Books of Kings T&T Clark 1951 0567050068

J. Gray I and II Kings: A Commentary (2nd Revised ed.) Westminster John Knox 1971 0664208983

S. L. McKenzie 1 Kings 16–2 Kings 16 Kohlhammer 2019 3170340409

その他 / Others

授業では日本語と英語を公用語とする(履修者の言語的背景に鑑みて決定する)。

The course will be given in Japanese and English.

聖書学演習(旧約)2

Seminar in Biblical Studies (Hebrew Bible) 1
申命記史研究
Deuteronomistic History Studies

長谷川　修一(HASEGAWA SHUICHI)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH312
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS6813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	学部科目 AA216「ヘブライ語講読2」と併置		

授業の目標 / Course Objectives

列王記の記述を原語で批判的に読みながら、申命記史研究の実際について学ぶ。
To learn the way in which studies on Deuteronomistic History are conducted through critical reading of the Book of Kings in Hebrew.

授業の内容 / Course Contents

列王記上 16 章以降のヘブライ語テキストを、特に編集史・伝承史的観点から批判的に読み進める。授業は受講者の予習に基づく発表とそれについての全員による議論とで構成される。ヘブライ語で聖書を読めること、英・独語の注解書や学術書・論文を読めることが受講のための必要条件である。
We critically read the First Book of Kings (from Chapter 16) in Hebrew from the viewpoints of redaction history and tradition history. Class consists of participants' well-prepared presentations on the text and discussions on the presentations. Participants are expected to read biblical Hebrew as well as bible commentaries and scholarly works in English and German.

授業計画 / Course Schedule

【1】:列王記下5章(1)(Second Book of Kings 5[1])
【2】:列王記下5章(2)(Second Book of Kings 5[2])
【3】:列王記下5章(3)(Second Book of Kings 5[3])
【4】:列王記下5章(4)(Second Book of Kings 5[4])
【5】:列王記下6章(1)(Second Book of Kings 6[1])
【6】:列王記下6章(2)(Second Book of Kings 6[2])
【7】:列王記下6章(3)(Second Book of Kings 6[3])
【8】:列王記下6章(4)(Second Book of Kings 6[4])
【9】:列王記下6章(5)(Second Book of Kings 6[5])
【10】:列王記下7章(1)(Second Book of Kings 7[1])
【11】:列王記下7章(2)(Second Book of Kings 7[2])
【12】:列王記下7章(3)(Second Book of Kings 7[3])
【13】:列王記下7章(4)(Second Book of Kings 7[4])
【14】:列王記下7章(5)(Second Book of Kings 7[5])

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

履修者には辞書・文法書・コンコーダンス、注解書を用いて次回読むテキストの徹底的な予習をすることが義務づけられる。

Before every class, participants are required to prepare the text thoroughly using dictionaries, grammar books, concordances and commentaries.

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表内容(複数回):100%

テキスト / Textbooks

Bible Society Biblia Hebraica Stuttgartensia Amer Bible Society 1997 9783438052223

Biblica Hebraica は毎回持参のこと。

Participants are expected to bring Biblia Hebraica to every class.

参考文献 / Readings

T. C. レーマー『申命記史書―旧約聖書の歴史書の成立』日本基督教団出版局 2008 4818406708

E. ヴュルトワイン『ATD旧約聖書註解8 列王記上』ATD・NTD聖書註解刊行会 2013 9784901434072

J. A. Montgomery A Critical and Exegetical Commentary on the Books of Kings T&T Clark 1951 0567050068

J. Gray I and II Kings: A Commentary (2nd Revised ed.) Westminster John Knox 1971 0664208983

S. L. McKenzie 1 Kings 16–2 Kings 16 Kohlhammer 2019 3170340409

その他 / Others

授業では日本語と英語を公用語とする(履修者の言語的背景に鑑みて決定する)。

The course will be given in Japanese and English.

作成:2024/10/02
科目コード:NH313

聖書学演習(新約)1

Seminar in Biblical Studies (New Testament) 1
『トマス福音書』と『ユダヤ福音書』の釈義

廣石　望(HIROISHI NOZOMU)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH313
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS6813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

古代キリスト教のコプト語文献を原文で読み、二次文献を用いて釈義を行う。具体的には『トマス福音書』と『ユダの福音書』からとりあげる。
We read ancient Christian texts written in Coptic in the original language and interpret them by consulting the secondary literature. Some passages from the Gospel of Thomas and the Gospel of Judas are planned.

授業の内容 / Course Contents

コプト語基礎文法の学習にもとづいて、『トマス福音書』と『ユダ福音書』の釈義を行う。発表者は二次文献を踏まえて原典テクストを検討し、独自の釈義を提示する。
On the ground of the basic grammar of Coptic language we study some passages from the Gospel of Thomas and that of Judas exegetically. Presenters will study the original texts while considering freely referenced secondary literature and present their individual interpretations.

授業計画 / Course Schedule

【1】:導入と分担決め
【2】:釈義
【3】:釈義
【4】:釈義
【5】:釈義
【6】:釈義
【7】:釈義
【8】:釈義
【9】:釈義
【10】:釈義
【11】:釈義
【12】:釈義
【13】:釈義
【14】:釈義

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○

実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

・コプト語文法の学習
・原典の読解
・二次文献との折衝
・独自の釈義の形成

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 研究発表:60% 共同討議への参加:40%

テキスト / Textbooks

B. Layton Coptic in 20 Lessons Peeters 2007 9042918101
W. E. Crum A Coptic Dictionary Oxford 1939 0198644043
K. Aland e.al. Synopsis quattuor evangeliorum: locis parallelis evangeliorum apocryphorum et patrum adhibitis (13. Auf.) Deutsche Bibelgesellschaft 1986 3438051303

参考文献 / Readings

荒井献『荒井献著作集 7 トマス福音書』岩波書店 2001 4000924478
U.-K. Plisch Das Thomasevangelium (2. Aufl.) Deutsche Bibelgesellschaft 2016 9783438051479
A.D. De Conick Recovering the original Gospel of Thomas T&T Clark 2005 0567489175
A. Gagné The Gospel according to Thomas Brepols 2019 2503584918
R. カッセル他『原典 ユダの福音書』日経ナショナル・ジオグラフィック社 2006
J. Brankaaer / H.-G. Bethge Codex Tchacos: Texte und Analysen W. de Gruyter 2007 9783110195705
A.D. De Conick The Thirteenth Apostle: What the Gospel of Judas Really Says Continuum 2009 1847065686
その他、授業中に指示する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

古代コプト語およびギリシア語の基礎知識、現代英語およびドイツ語の論文読解力、また聖書釈義の基礎知識のあることが望ましいが、なくても参加してよい。

作成:2024/10/02
科目コード:NH314

聖書学演習(新約)2

Seminar in Biblical Studies (New Testament) 2
古代エチオピア語と新約聖書学研究

赤城　M.（AKAGI MATTHEW-KAI）

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH314
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS6813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

古代エチオピア語(ゲエズ語)の基本文法や語彙を学び、新約聖書学研究との関連する古代エチオピア語文献を研究する。
Students will learn the basic grammar and vocabulary of Classical Ethiopic and conduct research on Classical Ethiopic texts relevant to New Testament research.

授業の内容 / Course Contents

エチオピアにおいてはキリスト教が早い時期から栄え、キリスト教がローマ帝国の国教となる前にも、エチオピアの国教となっていた。エチオピアのキリスト教の独特な文化や伝統のお蔭で、様々なユダヤ教偽典や初期キリスト教文献が古代エチオピア語(ゲエズ語)翻訳を通して現存し、それらの文献は第二神殿ユダヤ教、新約聖書、古代キリスト教の研究のための豊富な材料となる。現代でも古代エチオピア語はエチオピア正教会の典礼言語である。本科目では、古代エチオピア語(ゲエズ語)の基本文法や語彙が紹介され、I エノク書(主にエノクのたとえ)、ヨベル書、ペトロの黙示録を中心に、新約聖書学研究と関連する古代エチオピア語文献の研究が行われる。
Christianity flourished in Ethiopia from a very early period and became its state religion in the early fourth century, prior to Christianity becoming the state religion of the Roman Empire. The unique culture and traditions of Ethiopian Christianity resulted in the preservation of Jewish pseudepigrapha and early Christian texts relevant for study of the New Testament and Early Christianity in Classical Ethiopic (Geez), and Classical Ethiopic continues to be the liturgical language of the Ethiopian Orthodox Church until today. This course will include an introduction to Classical Ethiopic (Geez) language and major texts relevant to the study of New Testament research with a focus on 1 Enoch (esp. The Similitudes), Jubilees, and the Apocalypse of Peter.

授業計画 / Course Schedule

【1】:シラバスの説明、研究発表の決め、古代エチオピア語の音節表
【2】:古代エチオピア語の文法、I エノク書
【3】:古代エチオピア語の文法、I エノク書
【4】:古代エチオピア語の文法、I エノク書
【5】:古代エチオピア語の文法、I エノク書
【6】:古代エチオピア語の文法、I エノク書
【7】:古代エチオピア語の文法、I エノク書
【8】:古代エチオピア語の文法、ヨベル書
【9】:古代エチオピア語の文法、ヨベル書
【10】:古代エチオピア語の文法、ヨベル書
【11】:古代エチオピア語の文法、ペトロの黙示録

【12】:古代エチオピア語の文法、ペトロの黙示録
【13】:古代エチオピア語の文法、他の古代エチオピア語文献
【14】:古代エチオピア語の文法、他の古代エチオピア語文献

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

参加者は教科書と参考資料の該当部分を予習してくる。
発表者は、様々な資料を参考し、研究発表のレジュメを準備し、履修者分コピーして、演習時に配布する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 研究発表:50% 出席および共同討論への参加度:50%
全体の2／3以上の出席が単位取得の最低条件

テキスト / Textbooks

Archie Wright Basics of Ancient Ethiopic: A Complete Grammar, Workbook, and Lexicon Zondervan 2022 9780310539049
Nestle/Aland Novum Testamentum Graece: 28th Revised Ed. of the Greek New Testament, Standard Edition Deutsche Bibelgesellschaft 2012 3438051400
Wolf Leslau Concise Dictionary of Ge‘ez Otto Harrassowitz 2010 9783447062831

参考文献 / Readings

Michael A. Knibb The Ethiopic Book of Enoch: A New Edition in the Light of the Aramaic Dead Sea Fragments Oxford 1978 0198261632
日本聖書学研究所『聖書外典偽典 第4巻 旧約聖書偽典II』教文館 1975 9784764219045
George W. E. Nickelsburg 1 Enoch 2: A Commentary on the Book of 1 Enoch, Chapters 37-82 Fortress 2011
James C. VanderKam Jubilees: A Commentary Fortress 2018 9780800660352
Dennis D. Buchholz Your Eyes Will Be Opened: A Study of the Greek (Ethiopic) Apocalypse of Peter Scholars Press 1988 9781555400255
James H. Charlesworth The Old Testament Pseudepigrapha, Volume 1 Yale University Press 1983
James H. Charlesworth The Old Testament Pseudepigrapha, Volume 2 Yale University Press 1985 9780385188135
その他、講義の中で適宜紹介する。

作成:2024/10/02
科目コード:NH315

宗教史・宗教学演習

Seminar in History and Study of Religions
非・自由主義的な世界と文明の擁護者としてのユダヤ・キリスト教

加藤　喜之(KATO YOSHIYUKI)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH315
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS6813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

現代の欧米社会におけるキリスト教と政治の関係を分析することを目標とする。前期の現代神学思想研究と連動しており、一年を通して、この分野における基本的な論文をともに読み、議論をしていく。
The goal is to analyze the relationship between Christianity and politics in contemporary Western societies. The course is linked to the seminar on Contemporary Theology in the spring semester, and we will read and discuss basic papers in this field together throughout the year.

授業の内容 / Course Contents

2010 年ごろを境に欧米社会では、宗教を全面に押し出した右派政党が政治の表舞台に立つようになってきた。極右政党は常に一定数存在していたが、フランスの国民連合やドイツの AfD(ドイツのための選択肢)のように、有権者の 15%以上がこうした政党を支持するようになってきているのだ。Brexit を成し遂げたナイジェル・ファランジ率いるイギリス独立党の活躍はいうまでもない。ハンガリーやポーランドにおいては、フィデスや PiS(法と正義)が政権与党となった。2020 年代に入ってもその勢いは衰えず、イタリアでもメローニ率いる「イタリアの同胞」は政権与党となり、オランダではウィルダース率いる自由党が総選挙で第一党となった。
こうした政党は大衆に直接語りかける術を熟知しているようにみえる。グローバル化の恩恵を受けられず、疲弊してしまった大衆にナショナリズムを焚き付けることで、勢力を拡大してきた。そのナショナリズムの中心に宗教を見出すことができる。
ヨーロッパ社会は世界のどこよりも世俗化が進んだ地域だといわれているが、そうした国々で宗教復興が起こっているのだろうか？観光客しか訪れなくなった教会に今いちど若者が詰めかけているのだろうか？そうではない。世俗化は進むばかりである。唯一、国民の九割近くがカトリック教徒を自認していたポーランドでさえも、その数はこの 10 年で激減している。だとするとどのようなかたちで宗教は、政治、とりわけナショナリズムを鼓舞するというのだろうか？
こうした政党によると、宗教、すなわちキリスト教こそが自国の文明的な基盤だという。とくに、ムスリム系の移民が増え、欧州のイスラーム化が恐れられる時代において、アイデンティティの源泉としてのキリスト教が高く掲げられる。本演習では、この欧米文明の擁護者、アイデンティの源泉としてのキリスト教に注目し、従来のキリスト教理解との比較しつつ、現代欧米社会における宗教と政治の関係を明らかにしていきたい。

After around 2010, right-wing parties with an all-encompassing religious agenda began to take center stage in politics in Western societies. There have always been a certain number of far-right parties, but now more than 15% of voters support them, as in the case of France's Rassemblement National and Germany's AfD (Alternative für Deutschland), not to mention the success of the UK Independence Party led by Nigel Farang in achieving Brexit. In Hungary and Poland, Fidesz and PiS (Law and Justice) became the governing parties; in Italy, Meloni's Fratelli d'Italia became the governing party; and in the Netherlands, Wilders' Partij voor de Vrijheid became the leading party in the general elections.

These parties seem to know how to speak directly to the masses. They have expanded their power by inciting nationalism among the masses, who have grown weary of not being able to enjoy the benefits of globalization. Religion can be found at the heart of this nationalism.
European societies are said to be the most secularized regions in the world, but is there a religious revival taking place in these countries? Are young people once again flocking to churches that are no longer frequented only by tourists? Not at all. Secularization is only increasing. Even in Poland, where nearly 90% of the population used to identify themselves as Catholics, the number of Catholics has declined dramatically in the past decade. In what way, then, does religion inspire politics, especially nationalism?
According to these parties, religion, or Christianity, is the civilizational foundation of their countries. Especially in an era of increasing Muslim immigration and fears of the Islamization of Europe, Christianity as a source of identity is held in high regard. In this seminar, we will focus on Christianity as the defender of Western civilization and the source of identity, and compare it with the conventional understanding of Christianity to clarify the relationship between religion and politics in contemporary Western societies.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション
【2】:論文 1
【3】:論文 2
【4】:論文 3
【5】:論文 4
【6】:論文 5
【7】:論文 6
【8】:リーディングウィーク
【9】:論文 7
【10】:論文 8
【11】:論文 9
【12】:論文 10
【13】:論文 11
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎週課題となるテクストを参加者全員が読み、その内容のまとめを論理的な文章で作成する。その文章をもとに、議論を行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 課題のまとめ:40% 議論への参加:20% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

授業時に適宜指示される。

参考文献 / Readings

授業時に適宜指示される。

作成:2024/10/02
科目コード:NH321

キリスト教文化論演習１

Seminar in Christian Culture 1
西洋中世彩飾写本の研究

加藤　磨珠枝／岡田　理香(KATO MASUE／OKADA RIKA)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH321
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS6813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

西洋中世キリスト教世界でつくられた書物は、すべて人の手によって書写された写本である。なかでも聖書は神の言葉を輝かせるために、時に豪華な装飾と挿絵がほどこされていた。この授業では、当時の代表的な聖書写本の挿絵を中心に中世美術の魅力を学ぶ。。さらに授業で得た学問的興味を、自発的に深化させる技術、研究態度を身につける。
Christian books from the Middle Ages were all manuscripts, transcribed by human hand. Particularly, in order to accentuate the Bible, which contains the Word of God, they were often adorned with gorgeous decorations and illustrations. In this course, students will learn the appeal of Middle Age art through the study of various representative illustrations found in Bible manuscripts from the time period.

授業の内容 / Course Contents

中世写本はその携帯の容易さから各地へと運ばれ、さまざまな影響を受けながらユニークな装飾芸術を発展させた。授業では、一回ごとに一つの写本に注目し、その来歴、芸術表現について解説を行い、文字、文様、挿絵の 3 つの要素が聖書の物語をどのように輝かせ、人々の理解を促したのかを当時の社会背景も含めて学ぶ。また、本学図書館所蔵の中世写本ファクシミリを実際に鑑賞する機会を設けて、モノとしての写本理解を深める。なお、とりあげる写本については一部変更の可能性もある。

Middle Age manuscripts, being handheld and easily transported, were carried to many different regions, where they were influenced by various cultures, developing into a very unique form of art. In this seminar, we will focus on one manuscript at a time, discussing its history and artistic expression. Students will learn how the three components of text, patterns, and images accentuate the story of the Bible, as well as how they stimulated people's understanding of the same. We will also discuss the social background in order to better understand the relevant context. It should be noted that the manuscripts being dealt with may have small changes from copy to copy.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション:西洋世界における書物の歴史 (巻物から冊子本へ)
【2】:古代末期1 『ウィーン創世記』
【3】:古代末期2 『聖アウグスティヌスの福音書』
【4】:初期中世1『コデックス・アミアティヌス』
【5】:初期中世2　ケルト系写本『ケルズの書』ほか
【6】:初期中世3　カロリンング・ルネサンス 『アラテア写本』
【7】:初期中世4　カロリング・ルネサンス 『ユトレヒト詩篇』
【8】:初期中世5　スペインの 『ベアトゥス黙示録注解書』
【9】:ロマネスク期の王家の聖書 『コペンハーゲン詩篇』

【10】:研究発表・討論1
【11】:研究発表・討論2
【12】:研究発表・討論3
【13】:研究発表・討論4
【14】:授業のまとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

西洋中世の写本について基礎知識を得るために、下記に挙げた参考文献をできるだけ多く読んでおくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 研究発表:30% 授業への参加態度・貢献度:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

クリストファー・デ・ハーメル 『世界で最も美しい 12 の写本』 青土社 2018 年 9784791770922
クリストファー・ド・ハメル 『聖書の歴史図鑑』 東洋書林 2004 年 4887216386
クラウディア・ブリンカー・フォン・デア・ハイデ 『写本の文化誌:ヨーロッパ中世の文学とメディア 白水社 2017 年 9784560095591
クリストファー・デ・ハメル 『中世の写本ができるまで』 白水社 2021 9784560098455
ベルンハルト・ビショップ 『西洋写本学』 岩波書店 2015 4000610651

作成:2024/10/02
科目コード:NH322

キリスト教文化論演習２

Seminar in Christian Culture 2
典礼・礼拝におけるオルガン奏楽の研究と実践

米沢　陽子(YONEZAWA YOKO)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH322
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	グループレッスン形式でオルガン実技(伴奏法、鍵盤和声、奏楽曲、即興演奏等)の授業を行う。基本的に、授業の前半では共通課題を扱い、後半では各自が準備した奏楽曲のレッスンを行う予定である。
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS6813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	×(履修中止不可/ Not eligible for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

日々の典礼・礼拝の奏楽の良き担い手となれるよう、以下の目標を掲げる。
①教会暦や礼拝の趣旨に適った奏楽曲を選ぶことができる　②会衆の歌を適切に支えてリードする伴奏法を習得する
③オルガンという楽器の構造と特徴を理解する　④楽器の特性を生かした「音」を生み出す　⑤ルネサンス期から 21 世紀までの幅広いオルガン作品のレパートリーを習得する

The following objectives have been established for the students in order to ensure their proficiency in playing music for daily liturgy and worship services.
(1) To be able to select music appropriate to the liturgical year and the purpose of the service.
(2) To master accompaniment techniques that appropriately support and lead congregational singing.
(3) To understand the structure and characteristics of the organ instrument.
(4) To create ″sound″ that makes the most of the instrument's characteristics.
(5) To acquire a wide repertoire of organ works from the Renaissance to the 21st century.

授業の内容 / Course Contents

履修者が典礼・礼拝の奏楽者に求められる知識と技術を確実に身につけるために、グループレッスン(上限5人)を原則とする。オルガンという楽器に関する知識と理解を深め、レジストレーション(ストップの選択)、賛美歌・聖歌の伴奏法、鍵盤和声、即興演奏、作・編曲法を通じて、オルガンとその音楽を多角的に捉えていく。
教会音楽家はまた、一般信徒への啓蒙活動を行い、教会内にオルガンへの理解者を増やすという重要な任務も担っている。そのため、次のような内容のプレゼンテーションを課す。(1)楽器を自分の言葉で説明する、(2)賛美歌や歌曲の伴奏をする、(3)奏楽曲を演奏する。

In order to ensure the acquisition of the knowledge and skills necessary to be a liturgical and worship musician, group tuition (maximum of five students) is normally used. Through a variety of techniques such as registration (stop selection), accompaniment of hymns and songs, keyboard harmony, improvisation, composition and arrangement, students will deepen their knowledge and understanding of the organ as an instrument and gain a multifaceted view of the organ and its music.The church musician also has the important task of educating the general congregation and

increasing the number of people in the church who understand the organ. Therefore, they are required to give lectures on the following topics. (1) explain the instrument in their own words, (2) accompany hymns and songs, and (3) play organ pieces.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オルガンとの対話、オルガンを通しての対話 ― 楽器を歌わせるということ、アーティキュレーションの意味を考える
【2】:対位法的音楽の基礎 ― Bicinium(2声) 作品を歌う、弾き歌いをする
【3】:レジストレーションの可能性を探る ― オルガンの「音色」を識別し、コラール変奏曲の演奏を手掛かりに考える
【4】:主要三和音のみを用いた即興演奏① ― 讃美歌 541 番《父、御子、御霊の》(ハ長調)を題材として
【5】:主要三和音のみを用いた即興演奏② ― 各自が選んだ賛美歌・聖歌を題材として
【6】:鍵盤和声① ― ソプラノとバスが与えられているコラールの和声付け
【7】:鍵盤和声② ― 単旋律の賛美歌・聖歌を伴奏付けする
【8】:4声体のコラール、賛美歌・聖歌の伴奏法
【9】:『典礼聖歌』(カトリック)とグレゴリオ聖歌の伴奏法
【10】:ワーシップソングやコードネーム付き賛美歌・聖歌の伴奏法
【11】:短いコラール前奏曲を作ってみよう
【12】:トッカータや前奏曲を楽曲分析し、短い曲を自分で作ってみよう
【13】:プレゼンテーション① 奏楽者として「オルガン」という楽器とその役割について会衆に解説し、実演する(解説、賛美歌・聖歌伴奏、奏楽曲)
【14】:プレゼンテーション② 前回のプレゼンテーションを踏まえて、公開で実施する

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回とも、テーマに沿ったオルガン演奏に関する共通課題を課すので、必ず十分な準備をした上で、授業に臨むこと。
また、この授業においては賛美歌・聖歌の伴奏を弾く際には、まず歌詞を朗読し、呼吸に意識を向けて「弾き歌い」をすることを原則とするので、日々の練習を怠らないこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 毎回の課題への取り組み度:30% 最終レポート割合::30%最終テスト割合::40%

テキスト / Textbooks
参考文献 / Readings

近藤岳 『オルガン奏法』 道和書院 2020 9784810535013
日本オルガニスト協会 『オルガンの芸術』(第 2 版) 道和書院 2023 9784810530124
Siegmar Junker Orgelimprovisation 1 BONIFATIUS 2016 9783897104020
必要に応じて印刷資料を配付する

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

オルガンまたはピアノで、4声体のコラール、賛美歌・聖歌等を初見である程度弾けること。
バッハの『インヴェンション』(2声)またはそれに準じる対位法的楽曲を習得していることが望ましい。

学生が準備すべき機器等 / Equipment, etc., that Students Should Prepare

この授業専用の五線紙を各自用意すること。第3回授業の際は各自、色鉛筆を持参すること。

その他 / Others

教会音楽の現場において良き奏楽者であるためには、賛美歌・聖歌を歌う会衆の祈りと歌声を支え、その同伴者となることが求められます。オルガンを弾く際には「独りよがり」「自己満足」に陥ることなく、自らの使命を果たすべく奏楽に臨んでください。鍵盤や奏楽曲を弾くことだけに終始せず、呼吸を意識しながら楽器を喋らせる・歌わせる・自らも共に歌うことに視点と耳を移してオルガンと向き合ってみましょう。
エキュメニズムの時代に生きる私たちは、所属教派の典礼・礼拝音楽に限定することなく、幅広く教会音楽を学んでいく必要があります。本講座を通じて超教派での礼拝にも臨機応変に対応できる力を身につけていきましょう。
〈履修登録について〉この科目はウィリアムズコース 1 年次の学生を対象として開講される。該当者には研究科から履修希望の調査を行う。それに基づいて、研究科で履修登録(その他登録)を行う。科目の性格上、正規履修者以外の聴講は不可。
〈個人練習について〉学内オルガンを用いる個人練習については、履修開始後、授業担当者から各人が許可を得た後

で、なおかつ、研究科が定める、また、研究科がチャペル事務室と取り決めた範囲内でなされるものとする。

作成:2024/10/02
科目コード:NH323

宗教人間学演習

Seminar in Religious Anthropology
エンドオブライフと音楽について考える

米沢　陽子(YONEZAWA YOKO)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH323
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS6813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	チャペル会館2F　マグノリアルーム		

授業の目標 / Course Objectives

人間の生活と音楽との結びつきを理解し、音楽を通じて人間という存在を捉え直す。音楽を手掛かりに、いかに生き、いかに人生の終りを迎えたいかを考え、自らのエンドオブライフをデザインすることができる。
We will understand the connection between human life and music, and reposition human existence through music. Using clues from music, we can think about how to live and encounter the conclusion of life as well as design the end of our own lives.

授業の内容 / Course Contents

誰もがいつか迎える人生の終末期。そのとき、あなたは誰とどこでどのように過ごしたいと望むだろうか。そしてどんな音楽を聴きたいと思うだろうか。
授業ではホスピス緩和ケア病棟における音楽療法の臨床で患者さんが聴きたいと望んだ音楽と、そのエピソードを紹介する。音楽の好みはその人のアイデンティティと深く結びついおり、患者さんは大切な思い出、自分のモットー、信仰、死生観をリクエスト曲に託す。患者さんが音楽に託した思いを知り、人間にとって音楽とは何か？という問いに向き合い、考察を深めていく。
The last stage of life that everyone encounters at some time. Where and with whom would you want to be during that time? What kind of music would you want to listen to?
In this course we will introduce the music that patients in the hospice care ward wanted to listen to during clinical music therapy and the stories around the music. Musical preference is strongly tied to people's identities, and patients request songs from their cherished memories, mottos, faith, and view of life and death. We will learn the memories that patients gave to music, confront the question of what music is to humans, and deepen our examination.

授業計画 / Course Schedule

【1】:人間と音楽の歴史を考える
【2】:音楽の要素、音楽の機能について
【3】:耳を澄まそう ― リスニング・ウォークのすすめ
【4】:ホスピス緩和ケアにおける音楽療法とケアリングマインド
【5】:人生の先輩へのインタビューから見えてくるものとは？(発表)
【6】:エンドオブライフ・ケアの考え方　―　支えとなるものを見つける
【7】:全人的痛み(トータルペイン)に対するケアを考える
【8】:もしも「余命 3 ヶ月」と宣告されたら？―スピリチュアルペインについて考える
【9】:グリーフ(悲嘆)について考えてみよう
【10】:音楽による自分史づくり (1)― 音楽を通して人生を振り返る
【11】:音楽による自分史づくり(2) ―「人生を物語る」ということ

【12】:愛唱賛美歌(もしくは愛唱歌)と私の人生について
【13】:自分の人生を音楽に託して CD にまとめるとしたら？
【14】:自分自身のエンドオブライフについて考えよう ―思い出の食事、大切な音楽―

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

第5回の授業のために「人生の先輩へのインタビュー」という課題を課す。人生の先輩(家族、恩師、年上の友人等、各自の任意で)に「青春時代の思い出の曲」についてインタビューをし、授業で報告する課題なので、余裕を持って準備すること。詳細は初回授業時に指示する。また第 10・11 回には「音楽による自分史作りの発表を課すので、事前に配布するワークシートに取り組み、準備すること。
その他、授業時間外学習については、必要に応じて別途指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 口頭発表とその準備:30% 授業参加度:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

特に指定しない。必要に応じて資料を配布する。

参考文献 / Readings

大角欣矢 他 『憶えよ、汝死すべきを―ドイツ・プロテスタンティズムと音楽の歴史』 日本キリスト教団出版局 2009 年 99784818407015
津山祐子 『音楽療法―実践者のためのガイドブック』 ナカニシヤ出版 2008 年 9784779502293
小澤竹俊 『死を前にした人にあなたは何ができますか』 医学書院 2017 年 9784260032087
寺本松野 『きょう一日を―寺本松野ことば集』 日本看護協会出版会 2004 年 9784818008908
井手敏郎 『大切な人を亡くしたあなたに知っておいてほしい 5 つのこと』 自由国民社 2020 年 9784426125165
その他、必要に応じて紹介する。

その他 / Others

授業内容については受講生の人数や関心により多少の変更を加えることもある。(履修者と要相談の上)
パワーポイント、映像資料を用いて授業を進めていくが、各回のテーマに関して予め印刷教材を配布するので、目を通して、自分なりの考えをまとめて授業の臨んでもらいたい。

注意事項(検索結果画面)

チャペル会館2F マグノリアルーム

作成:2024/10/02
科目コード:NH324

アジア・キリスト教演習

Seminar in Christianity in Asia
東アジアにおけるキリスト教と冷戦
Christianity and the Cold War in East Asia

ゾンターク, M／劉　ブン(SONNTAG MIRA/ LIU WEN)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH324
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS6813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

東アジアにおけるキリスト教の現状を適切に把握するために、冷戦が教会形成、エキュメニカル運動と文脈化神学に与えた影響を追究する。
The class will trace the impact of the Cold War on church development, the ecumical movement and contextual theologies in order to sufficiently understand the current situation of Christianity in East Asia.

授業の内容 / Course Contents

指定された文献に基づいて、以下の質問について議論する。世界中のキリスト教共同体と主要な冷戦当事者の間には、どのような政治的、イデオロギー的および社会的な関係が存在したか。冷戦中およびそれに関連する教会の「使命」はどう捉えられたか。教会はどの程度まで冷戦政治の道具となったか。教会はどのように冷戦の心構えを交渉したか。また1945 年から 1990 年までの教会の主な成果と主な課題は何だったのか。

Based on the assigned literature we will engage in a discussion of the following questions:
What political, ideological and social relationships existed between the global Christian community and dominant Cold War parties? What was the alleged mission of the churches during and in relation to the Cold War? To what extent did churches become instruments of Cold War politics? How did churches negotiate Cold War mentalities? What were the main achievments of the churches and what their main problems during the period from 1945 to 1990?

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション:日程確認、役割分担など、テーマへの導入
【2】:文献紹介・考察の発表1、討議
【3】:文献紹介・考察の発表2、討議
【4】:文献紹介・考察の発表3、討議
【5】:文献紹介・考察の発表4、討議
【6】:文献紹介・考察の発表5、討議
【7】:文献紹介・考察の発表6、討議
【8】:文献紹介・考察の発表7、討議
【9】:文献紹介・考察の発表8、討議
【10】:文献紹介・考察の発表9、討議
【11】:文献紹介・考察の発表10、討議
【12】:文献紹介・考察の発表11、討議
【13】:文献紹介・考察の発表12、討議

【14】:総括討論

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習・復習・複数回の発表。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業の議論への貢献、複数回の発表:100%

テキスト / Textbooks

Philip L. Wickeri eds. Unfinished History: Christianity and the Cold War in East Asia Evangelische Verlagsanstalt 2016
テキストは pdf で提供する。その他の授業関連の資料と参考文献の一部は担当教員のグーグルドライブで共有する。

参考文献 / Readings

授業内に提示する。

作成:2024/10/02
科目コード:NH331

宗教教育演習

Seminar in Religious Education
スピリチュアリティ(霊性)と教育との関わり、宗教教育思想について探る。

菱刈　晃夫(HISHIKARI TERUO)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH331
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS6813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

スピリチュアリティ(霊性)と教育との関わり、宗教教育思想について歴史的かつ理論的な理解を深めることを目標とする。
We will historically and theoretically deepen our understanding regarding the relationship between spirituality and education as well as ideas on religious education.

授業の内容 / Course Contents

スピリチュアリティ(霊性)と教育との関わり、宗教教育思想について、資料を手がかりに歴史的かつ理論的な観点から明らかにする。
We will make clear from a historical and theoretical perspective the relationship between education and spirituality as well as ideas on religious education using texts and other materials.

授業計画 / Course Schedule

【1】:スピリチュアリティの位置づけ
【2】:宗教と日本人について(1)
【3】:宗教と日本人について(2)
【4】:宗教と日本人について(3)
【5】:宗教と教育について(1)
【6】:宗教と教育について(2)
【7】:宗教と教育について(3)
【8】:宗教文化教育について(1)
【9】:宗教文化教育について(2)
【10】:宗教文化教育について(3)
【11】:宗教文化教育について(4)
【12】:宗教文化教育について(5)
【13】:宗教文化教育について(6)
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

(予習)指定されたテキスト箇所を読んで要点をつかみ、疑問点や確認したい点についてノートにメモしておく。
(復習)授業内容について整理し、まとめる。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 議論への参加(発表を含む):80% 最終レポート割合::20%最終テスト割合::0%

テキスト / Textbooks

適宜、配布します。

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:NH332

フィールドワーク演習１

Seminar in Field Work 1
「聴くことの場」、「語ることの場」をいかに練り上げるか
How weaving a field of listening, talking

金　迅野(KIM SHINYA)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH332
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS6813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

さまざまなフィールドで出会う言葉を「聴く」とはどういうことか。また、「聴く」ことと「語る」ことはどのように関連しているのか。「聴く／語る」ことが生起する「物語」をキーワードに、いくつかのテキストの輪読を軸に、適宜、ワークショップや講義をまじえながら、わたしたちがかかえる、からだや言葉の貧困、わたしの／わたしたちの責任についての考察を深める。
What does it means to listen to the “voices” which we encounter in the fields. And what is the relationship between listening to and talking to? Making “story-telling,” which include both “listening” and “talking,” as the keyword, we will deepen thoughts about the poverty of body and words, and responsibility through reading some texts.

授業の内容 / Course Contents

「読む」「聴く」「語る」「表現する」ことをテーマにした書籍を読む。併せて、さまざまな実践／ワークショップを経験しながら、「からだ」を通して思考することを共有したい。日常的におこなっていると漠然と考えている「聴く」、「ものを語る」という実践が、いかにフィールドの質を形成し、「生きにくさ」に対抗する生の核になるのかをともに考えたい。学生には、「あえて語らない」ことを含めた積極的な「参加」を求めたい。居場所を失ったこどもの声を聴く現場実践について、外部講師を招いて、ラップ・ワークショップなどを通して「聴く」ことの意味について学ぶ予定である。
Reading, listening, talking, and expressing are themes of this session and we will read some texts on the themes. Some workshops will be offered to experience thinking with your “body.” We often think “listening” and “talking” are some ordinary and mundane practices. In this session, we will inquire how practices of listening and talking determine the quality of the field and that how they become the foundation of life to overcome some difficulties. Students will be required to have a positive attitude. We are planning to have a guest speaker who is an expert on listening who lost their place in society and on ″rap″ workshop.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション
【2】:資料輪読
【3】:資料輪読
【4】:資料輪読
【5】:資料輪読
【6】:資料輪読
【7】:資料輪読
【8】:資料輪読
【9】:資料輪読
【10】:資料輪読

【11】:資料輪読
【12】:資料輪読
【13】:学生の発表
【14】:ふりかえり

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

＊テキストを予め読むこと。
＊テキストの輪読と併せて、適宜、可能な範囲でワークショップを実践する予定。
＊オプションとして、こどもの居場所を運営する NPO への訪問や外部講師による講義も予定。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 発表:30% 討論等参加:70%

テキスト / Textbooks

鷲田清一 『「聴く」ことの力』 ちくま学芸文庫 2015 9784480096685
カロリン・エムケ 『なぜならそれは言葉にできるから』 みすず書房 2019 9784622088530

参考文献 / Readings

授業のなかで適宜紹介する

作成:2024/10/02
科目コード:NH333

フィールドワーク演習　2

Seminar in Field Work 2
ヘイト、災害などで「居場所」を喪った／奪われた人びとの生から学ぶ
Learning from the life of “displaced” peoples who have lost their places because of hate crimes, disasters, and so on.

金　迅野(KIM SHINYA)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH333
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	通年
単位	2	科目ナンバリング	CHS6813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	隔週開講 学部科目 AA201「フィールドワークA1」と併置		

授業の目標 / Course Objectives

川崎(訪問)、横浜・渋谷(訪問)、福島(オンライン講義)などのフィールドで行われているキリスト教会を軸とした実践から学ぶ。ヘイトクライムや災害、貧困などを通じて「居場所」を奪われた人びとの声を聴き、「生きる」ことの前提がどのように疎外されうるのかを学ぶばかりでなく、学生自身が自分の歩むべき道について考察する。
Visiting Kawasaki, Yokohama, Tokyo (Shibuya) and Fukushima (online), students will learn from the testimonies of Christian practitioners and listen to the “voices” of people who are displaced by hate crimes, natural disasters, and poverty, and learn how easily people will be isolated and alienated from their own lives. This will also allow students to seek their own life course.

授業の内容 / Course Contents

フィールドを訪問するに先立ち、地域の成り立ちの歴史に目を注ぎ、わたしたちの「いま」は何によって成り立ってきたのかを理解する。また、「声」を聴くことの意味、「声」を聴くということのエピステモロジーについても事前に学ぶ。さまざまな「声」に耳を傾け、事柄を外在的に学ぶのではなく、見聞きしたことの報告を通して、パンデミックの時代を「いかに生きるのか」という問いを抱きしめることにつとめる。フィールド訪問に関しては、学生と実施日を相談しながら決めていく。併せて covid19 の感染状況を鑑みながら訪問を適宜オンラインに変更する。
Before visiting the fields, we will focus on the history of these communities and inquire about what made the present situation. We will also learn the meaning of hearing the voices of others and the epistemology of hearing. By visiting two sites (Kawasaki, Yokohama: a day-trip, Fukushima: online lecture) and listening to the voices of the fields, you will not simply learn facts, but also try to connect yourself to the reality of people’s life asking “How will we live in this reality of multiple crises including the pandemic?” Dates for the field trips will be discussed with the students. Field trips might be changed to online depending on the COVID-19 situation.

授業計画 / Course Schedule

【1】:前期のオリエンテーション:『見知らぬわがまち』を読む
【2】:「喪失の経験」／「いまは目に見えないもの」
【3】:学生による発表(自分の「ふるさと」を表現する試み)
【4】:風景の地層を掘る
【5】:活動／運動と「声」あるいは「非ー声」
【6】:「共生」という言葉と現実。「ヘイト」の乗り越えはいかに可能か
【7】:前期のふりかえりとまとめ
【8】:後期のオリエンテーション:「問い」をかみしめる

【9】:福島／フクシマについて考える①
【10】:福島／フクシマについて考える②
【11】:学生による発表
【12】:現代の「貧困」について考える①
【13】:現代の「貧困」について考える②
【14】:まとめとふりかえり

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

★授業は「隔週」で行われる。
★講義日とは別に、複数の「現場」への旅を学生と相談のうえ実施する。
★紹介する参考資料を盛り込んだレジュメは、前日までに Canvas LMS 等にアップするので、あらかじめ読み込んでおくことが望ましい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 出席および授業参加態度:70% 発表:30%

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

丹野清人他編著『わたしもじだいのいちぶです』 日本評論社 2019 9784535587281
山形孝夫ほか『3・11 以後この絶望の国で』 ぷねうま舎 2014 9784906791255
山田清機『寿町のひとびと』 朝日新聞出版 2020 4023319139
以上のもの以外にも、適宜(映像資料等含む)、広く紹介する。

作成:2024/10/02
科目コード:NH334

サーヴィスラーニング1

Service Learning 1
学問領域と実社会をつなぐ1

金　迅野(KIM SHINYA)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH334
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS6813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

自発的な思想と奉仕の精神に基づき、一定期間、奉仕活動をおこない、それを通して実社会での「働き人」としての資質を高める。
Based on spontaneous thought and volunteer spirit, students will do volunteer work domestically for a period of time. Doing this they will improve their quality as ″workers″ in actual society.

授業の内容 / Course Contents

サーヴィスラーニングは、学問領域と実社会をつなぎ、学問的知識が実社会で具体的に役割を担うことを通じて、学生本人と受け入れ先団体双方が学びあい、強められること(互恵性、reciprocity)を目指した教育プログラムである。「役割・責任を担うことが人を育てる」(Position makes a person capable)との考え方に立ち、現場で一定期間具体的な役割・責任を担って奉仕活動を行う。具体的には、1)サーヴィス・ラーニングの意味・内容・方法についてのオリエンテーション、2)学生自身の関心と課題に基づいてフィールド・受け入れ先を一箇所選定して「計画書」を作成、3)受け入れ先団体の確認が取れた後に奉仕活動を実施、4)活動終了後に「報告書」を作成し、学びの共有・還元を兼ねて受け入れ団体とともに振り返り、5)これからの働き人としての新たな出発点をつくる。
Service learning is an educational program that aims for both students and organizations to learn together and improve (reciprocity) by linking academic knowledge with specific roles in actual society. From the perspective that, ″Position makes a person capable″, students will do volunteer work on the ground with specific roles and responsibilities for a period of time. More specifically, students will
1. Take an orientation about the meaning, content, and methods of service learning.
2. Select a receiving site/organization based on the interests and study subjects of the students and make a plan.
3. Carry out volunteer work after confirmation from the receiving organization.
4. Write a report after finishing volunteer work and reflect and share with the organization about what they learned.
5. Create a new departure point as a workers in actual society.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション
【2】:奉仕活動先の選定と「サーヴィス・ラーニング計画書」作成(1)　＊講義はなく個別相談
【3】:奉仕活動先の選定と「サーヴィス・ラーニング計画書」作成(2)　＊講義はなく個別相談
【4】:奉仕活動受け入れ先(受け入れ団体)決定　＊講義はなく個別相談
【5】:サーヴィス・ラーニング実施　(適宜学生同士の経験のシェアリングをおこなう)
【6】:サーヴィス・ラーニング実施　(適宜学生同士の経験のシェアリングをおこなう)
【7】:サーヴィス・ラーニング実施　(適宜学生同士の経験のシェアリングをおこなう)
【8】:サーヴィス・ラーニング実施　(適宜学生同士の経験のシェアリングをおこなう)

【9】:サーヴィス・ラーニング実施 （適宜学生同士の経験のシェアリングをおこなう）
【10】:サーヴィス・ラーニング実施 （適宜学生同士の経験のシェアリングをおこなう）
【11】:サーヴィス・ラーニング実施 （適宜学生同士の経験のシェアリングをおこなう）
【12】:サーヴィス・ラーニング実施 （適宜学生同士の経験のシェアリングをおこなう）
【13】:サーヴィス・ラーニング実施 （適宜学生同士の経験のシェアリングをおこなう）
【14】:最終報告と経験のシェアリング

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前におこなってみたい活動や、希望する奉仕活動先(受け入れ団体)に関する情報を収集しておくことが望ましい。授業開始以外でも、相談に応じます。適宜、zoom を活用し、情報共有をおこなう予定。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業態度、サーヴィスラーニング実施態度:70% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

西原廉太ほか『リベラル・アーツとしてのサービス・ラーニング』 北樹出版 2017 4779305306
必要に応じて他の文献等も紹介する。

作成:2024/10/02
科目コード:NH335

サーヴィスラーニング2

Service Learning 2
学問領域と実社会をつなぐ1

金　迅野(KIM SHINYA)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH335
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS6813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

自発的な思想と奉仕の精神に基づき、一定期間、奉仕活動をおこない、それを通して実社会での「働き人」としての資質を高める。
Based on spontaneous thought and volunteer spirit, students will do volunteer work domestically for a period of time. Doing this they will improve their quality as ″workers″ in actual society.

授業の内容 / Course Contents

サーヴィスラーニングは、学問領域と実社会をつなぎ、学問的知識が実社会で具体的に役割を担うことを通じて、学生本人と受け入れ先団体双方が学びあい、強められること(互恵性、reciprocity)を目指した教育プログラムである。「役割・責任を担うことが人を育てる」(Position makes a person capable)との考え方に立ち、現場で一定期間具体的な役割・責任を担って奉仕活動を行う。具体的には、1)サーヴィス・ラーニングの意味・内容・方法についてのオリエンテーション、2)学生自身の関心と課題に基づいてフィールド・受け入れ先を一箇所選定して「計画書」を作成、3)受け入れ先団体の確認が取れた後に奉仕活動を実施、4)活動終了後に「報告書」を作成し、学びの共有・還元を兼ねて受け入れ団体とともに振り返り、5)これからの働き人としての新たな出発点をつくる。
Service learning is an educational program that aims for both students and organizations to learn together and improve (reciprocity) by linking academic knowledge with specific roles in actual society. From the perspective that, ″Position makes a person capable″, students will do volunteer work on the ground with specific roles and responsibilities for a period of time. More specifically, students will
1. Take an orientation about the meaning, content, and methods of service learning.
2. Select a receiving site/organization based on the interests and study subjects of the students and make a plan.
3. Carry out volunteer work after confirmation from the receiving organization.
4. Write a report after finishing volunteer work and reflect and share with the organization about what they learned.
5. Create a new departure point as a workesr in actual society.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション
【2】:奉仕活動先の選定と「サーヴィス・ラーニング計画書」作成(1)　＊講義はなく個別相談
【3】:奉仕活動先の選定と「サーヴィス・ラーニング計画書」作成(2)　＊講義はなく個別相談
【4】:奉仕活動受け入れ先(受け入れ団体)決定　＊講義はなく個別相談
【5】:サーヴィス・ラーニング実施　(適宜学生同士の経験のシェアリングをおこなう)
【6】:サーヴィス・ラーニング実施　(適宜学生同士の経験のシェアリングをおこなう)
【7】:サーヴィス・ラーニング実施　(適宜学生同士の経験のシェアリングをおこなう)
【8】:サーヴィス・ラーニング実施　(適宜学生同士の経験のシェアリングをおこなう)

【9】:サーヴィス・ラーニング実施 （適宜学生同士の経験のシェアリングをおこなう）
【10】:サーヴィス・ラーニング実施 （適宜学生同士の経験のシェアリングをおこなう）
【11】:サーヴィス・ラーニング実施 （適宜学生同士の経験のシェアリングをおこなう）
【12】:サーヴィス・ラーニング実施 （適宜学生同士の経験のシェアリングをおこなう）
【13】:サーヴィス・ラーニング実施 （適宜学生同士の経験のシェアリングをおこなう）
【14】:最終報告と経験のシェアリング

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

事前におこなってみたい活動や、希望する奉仕活動先(受け入れ団体)に関する情報を収集しておくことが望ましい。授業開始前でも、相談に応じます。適宜、zoom を活用し、情報共有をおこなう予定。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業態度、サーヴィスラーニング実施態度:70% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

西原廉太ほか『リベラル・アーツとしてのサービス・ラーニング』 北樹出版 2017 4779305306
必要に応じて他の文献等も紹介する。

オルガン演奏法1

Organ Lessons 1
キリスト教の礼拝におけるオルガン奏楽法

崎山　裕子(SAKIYAMA YUUKO)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH341
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS6813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	チャペル会館2F　マグノリアルーム		

授業の目標 / Course Objectives

教会での奏楽経験者を対象とし、国や時代、教派によって様々に異なるオルガンの演奏法を学び、教会音楽奉仕者に必要不可欠な知識と技術を習得する。「オルガン演奏法1」と「オルガン演奏法2」の両方を受講することが必須。所属する教会の礼拝で実践することを目標とし、オルガン演奏や奏楽の初心者は受講の対象としない。
This course is for those who have experienced musical performance in church. We will learn organ performance methods that much depend on the country, era, and denomination. We will acquire the required knowledge and skills for musical performers in church. This course is not meant for beginners to organ and musical performance. One must take “Organ Lessons 1” and “Organ Lessons 2” to be enroll in this course. The goal is to practice during the worship of the church that the student is affiliated with.

授業の内容 / Course Contents

3 人を上限とするグループレッスンを原則とし、互いの演奏を聴き合うことで、客観的かつ的確な聴力を養う。オルガンの楽曲のみならず、聖歌やチャント、詩編の伴奏法を学び、言葉と音楽の関係性についても考察する。楽曲や楽器によって異なる演奏法を習得し、適切な音を選ぶ技術を養う。上級者は、奏楽に必要な編曲や即興を課題とする。
Having group lessons with a maximum of three students, we will listen to each other’s performances and objectively and accurately improve our listening capabilities. We will learn about not only organ pieces but also performance methods for hymns, chants, and psalms. In addition, we examine the relationship between words and music. We will acquire performance methods that differ based on the piece and instrument and improve our skill in choosing an appropriate sound. Advanced students will tackle musical arrangement and improvisation methods necessary to performance.

授業計画 / Course Schedule

【1】:ガイダンス:各人の所属する教派の礼拝に相応しい課題の設定。
【2】:演習(1)
【3】:演習(2)
【4】:演習(3)
【5】:演習(4)
【6】:演習(5)
【7】:演習(6)
【8】:演習(7)
【9】:演習(8)
【10】:演習(9)
【11】:演習(10)
【12】:演習(11)

【13】:演習(12)
【14】:最終実技試験(実技テスト、レポート提出)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

選択した聖歌(賛美歌)と楽曲について調べ、練習を積む。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業態度:30% 最終レポート割合::30%最終テスト割合::40%

テキスト / Textbooks

適宜、必要な楽譜を紹介し、使用する。

参考文献 / Readings

適宜、必要な資料や文献、書籍を紹介し、使用する。

注意事項(検索結果画面)

チャペル会館2F マグノリアルーム

作成:2024/10/02
科目コード:NH342

オルガン演奏法　2

Organ Lessons 2
キリスト教の礼拝におけるオルガン奏楽法

崎山　裕子(SAKIYAMA YUUKO)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH342
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS6813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	チャペル会館2F　マグノリアルーム		

授業の目標 / Course Objectives

教会での奏楽経験者を対象とし、国や時代、教派によって様々に異なるオルガンの演奏法を学び、教会音楽奉仕者に必要不可欠な知識と技術を習得する。「オルガン演奏法1」と「オルガン演奏法2」の両方を受講することが必須。所属する教会の礼拝で実践することを目標とし、オルガン演奏や奏楽の初心者は受講の対象としない。

This course is for those who have experienced musical performance in church. We will learn organ performance methods that much depend on the country, era, and denomination. We will acquire the required knowledge and skills for musical performers in church. This course is not meant for beginners to organ and musical performance. One must take “Organ Lessons 1” and “Organ Lessons 2” to be enroll in this course. The goal is to practice during the worship of the church that the student is affiliated with.

授業の内容 / Course Contents

「オルガン演奏法1」に引き続き、3 人を上限とするグループレッスンを原則とし、互いの演奏を聴き合うことで、客観的かつ的確な聴力を養う。オルガンの楽曲のみならず、聖歌やチャント、詩編の伴奏法を学び、言葉と音楽の関係性についても考察する。楽曲や楽器によって異なる演奏法を習得し、適切な音を選ぶ技術を養う。上級者は、奏楽に必要な編曲や即興を課題とする。

Continuing from “Organ Lessons 1,” having group lessons with a maximum of three students, we will listen to each other’s performances and objectively and accurately improve our listening capabilities. We will learn about not only organ pieces but also performance methods for hymns, chants, and psalms. In addition, we examine the relationship between words and music. We will acquire performance methods that differ based on the piece and instrument and improve our skill in choosing an appropriate sound. Advanced students will tackle musical arrangement and improvisation methods necessary to performance.

授業計画 / Course Schedule

【1】:ガイダンス:各人の所属する教派の礼拝に相応しい課題の設定。「オルガン演奏法1」で習得した技術の更なる向上を目標とする。
【2】:演習(1)
【3】:演習(2)
【4】:演習(3)
【5】:演習(4)
【6】:演習(5)
【7】:演習(6)
【8】:演習(7)
【9】:演習(8)

【10】:演習(9)
【11】:演習(10)
【12】:演習(11)
【13】:演習(12)
【14】:最終実技試験(実技テスト、レポート)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表		グループ発表		ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

選択した聖歌(賛美歌)と楽曲について調べ、練習する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業態度:30% 最終レポート割合::30%最終テスト割合::40%

テキスト / Textbooks

適宜、必要な楽譜を紹介し、使用する。

参考文献 / Readings

適宜、必要な資料や文献、書籍を紹介し、使用する。

注意事項(検索結果画面)

チャペル会館2F マグノリアルーム

作成:2024/10/02
科目コード:NH343

合唱・聖歌隊指導法1

Choral Conducting 1
基礎を学ぶ

大島　博(OSHIMA HIROSHI)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH343
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS6813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	チャペル会館2F　マグノリアルーム		

授業の目標 / Course Objectives

礼拝等における音楽の役割をより豊かにするため、合唱指導の際に必要な知識、技術の基礎を習得することを目指す。
To further amplify the role of music in worship, we will aim to acquire the knowledge and fundamental skills that are necessary for tutoring choruses.

授業の内容 / Course Contents

基本的にグループレッスンの形をとって実習するが、必要に応じて個別の指導も加える。賛美歌やコラール等を題材に、発声、発音、歌唱法、指揮法の基礎を学ぶ。取り上げた作品についてレポートし、また、受講生同士で模擬練習、指導を体験して、それらに対する意見交換をを行う中でより良い指導の道を探る。
In general, the course will have a group lesson format, but we will add individual tutoring when necessary. We will learn the foundations of vocalization, pronunciation, singing, and conducting using hymns and chorales as our subject matter. Students will produce reports on assigned pieces, simulate exercises and tutoring together with other students to search for better way of tutoring by exchanging opinions on these.

授業計画 / Course Schedule

【1】:合唱における声　ー　発声の基礎
【2】:音程と声の響き
【3】:発音　ー　母音、無声子音と有声子音
【4】:楽譜を読む
【5】:単旋律を歌う
【6】:複旋律を歌う
【7】:ハーモニーの感覚　ー　基本的な和音
【8】:ハーモニーの感覚　ー　響きを楽しむ
【9】:リズムの感覚　ー　2 拍子と 3 拍子
【10】:リズムの感覚　ー　拍をそろえる、ズレを楽しむ
【11】:指揮法の基礎　ー　構えと基本的な動き
【12】:指揮法の基礎　ー　曲の始め方、終わり方
【13】:指揮法の基礎　ー　アウフタクトの意識
【14】:受講生によるプレゼンテーション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	

個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回の授業で学んだ事についてしっかりと復習することが重要である。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席および受講態度:30% 授業内容の達成度チェック:40% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

楽譜、資料を配布する。

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介する。

その他 / Others

授業の性格上、授業計画の順序が入れ替わる可能性もある。

注意事項(検索結果画面)

チャペル会館2F マグノリアルーム

作成:2024/10/02
科目コード:NH344

合唱・聖歌隊指導法 2

Choral Conducting 2
実践力をつける

大島 博(OSHIMA HIROSHI)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH344
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS6813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	チャペル会館2F マグノリアルーム		

授業の目標 / Course Objectives

合唱・聖歌隊指導法 1 で学んだことを踏まえて、より実践的な指導法について実習し、音楽的な表現力を高める。
Based on what we learned from "Choral Conducting 1," we will practice pragmatic tutoring methods and improve our musical expression ability.

授業の内容 / Course Contents

基本的にグループレッスンの形をとって実習するが、必要に応じて個別の指導も加える。簡単な聖歌やモテットを題材に、音楽的な表現について考え、受講生同士での模擬練習、指導を通して総合的な指導のあり方を探る。
In general, the course will have a group lesson format, but we will add individual tutoring when necessary. We will think about musical expression using simple hymns and motets, simulate exercises and tutoring together with other students, and search for a general way of tutoring.

授業計画 / Course Schedule

【1】:テキストの表現 ー 言葉を音にどう乗せるか
【2】:日本語のテキストを歌う場合の注意点
【3】:内容の理解と表現の方法 ー フレーズの意識
【4】:内容の理解と表現の方法 ー 音色の変化
【5】:指揮法の基礎 ー 音楽の表情を振り分ける
【6】:指揮法の基礎 ー 各声部への指示の出し方
【7】:指揮法の基礎 ー 曲中での速度変化
【8】:総合的な練習 ー 曲の選択
【9】:総合的な練習 ー 練習計画
【10】:総合的な練習 ー 現状の判断と改善の方法
【11】:総合的な練習 ー 音楽的メッセージの共有
【12】:総合的な練習 ー 音を合わせる
【13】:総合的な練習 ー 心を合わせる
【14】:受講生によるプレゼンテーション(公開で行う)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回の授業で学んだ事についてしっかりと復習することが重要である。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 出席および受講態度:20% 授業内容の達成度チェック:30% プレゼンテーション:30% 最終レポート割合::20%

テキスト / Textbooks

楽譜、資料を配布する。

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介する。

注意事項(検索結果画面)

チャペル会館2F マグノリアルーム

作成:2024/10/02
科目コード:NH346

会衆賛美論演習1

Seminar in Congregational Song 1
ドイツ・ルター派教会の礼拝における会衆賛美―宗教改革期からバッハまで―

米沢　陽子(YONEZAWA YOKO)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH346
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS6813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	チャペル会館2F　マグノリアルーム		

授業の目標 / Course Objectives

宗教改革直後から 18 世紀に至るルター派の会衆賛美の概要を理解し、ルターが実現しようとした礼拝の在り方を考察し、会衆賛美に関する基本的な知識を身に付ける。
We will understand an overview of Lutheran public hymns from after the Protestant Reformation until the 18th century, examine the state of worship that Luther tried to create, and acquire fundamental information about public hymns.

授業の内容 / Course Contents

宗教改革により「礼拝が刷新され、祈りの言葉も讃美歌もラテン語からドイツ語に変わり、人々は高らかに自分たちの言語で神を賛美した」と一般には捉えられている。それは誤りではない。しかし、当時のルターの言説からは、ただちに全てがラテン語からドイツ語に移行したわけではなかったこと、会衆がコラールを歌おうとしなかったことが読み取れる。授業ではできる限り一次資料の復刻版やファクシミリ版を紹介しながら、ルター派の礼拝の変遷を見ていく。割り当てられたテーマについて口頭発表を課す。また必要に応じて演奏実践も取り入れる予定である。
It is thought, in general, that after the Protestant Reformation worship was reformed, prayers and hymns were done in German instead of Latin, and people highly praised God in their own languages. There is no error in that thought. However, it can be understood from the Lutheran discourse at the time that all of the transition from Latin into German did not immediately happen and that the public did not try to sing chorales. I would like to look at the changes in Lutheran worship while introducing reprinted primary texts and facsimiles. This course will be held in seminar format, and I will assign oral presentations about given topics. We also plan to incorporate music performances when necessary.

授業計画 / Course Schedule

【1】:宗教改革以前の典礼音楽／マルティン・ルターと音楽
【2】:『ミサと聖餐の原則』(1523 年)と『ドイツミサ』(1526 年)に見る礼拝改革の概要
【3】:ルターが目指した会衆賛美について考える
【4】:宗教改革最初期のコラール集
【5】:16 世紀中庸のルター派コラール集 ― Das Babstsche Gesangbuch
【6】:ルター派のラテン語聖歌集“Psalmodia”の概要
【7】:17 世紀のルター派教会における会衆賛美(1)―ハンブルクを例に―
和声付けされた最初期の4声体コラール集 ― Melodeyen Gesangbuch(1604 年)
【8】:17 世紀のルター派教会における会衆賛美(2)ーハンブルク聖ゲルトルート礼拝堂における礼拝を再現してみよう
【9】:17 世紀のルター派教会における会衆賛美(3)―ドレスデンを例に―
【10】:17 世紀のルター派教会における会衆賛美(4)―ハレを例に―
【11】:17 世紀後半～18 世紀のルター派コラール集／バッハが用いたコラール集
【12】:ライプツィヒ聖トーマス教会における礼拝―カンタータと会衆賛美

【13】:会衆賛美とオルガン(1)礼拝におけるオルガニストの役割とは
【14】:会衆賛美とオルガン(2)アルテルナティムと伴奏

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

時間外学習については、必要に応じて別途指示する。マルティン・ルターという人物について基本的な情報は得ておくこと。また事前に配布したコラールの楽譜は譜読みして準備すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 口頭発表とその準備:30% 授業への参加度:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

必要に応じて資料を配布する。季刊誌『礼拝と音楽』200 号(2024 年 Winter、日本キリスト教団出版局)も参照のこと。

参考文献 / Readings

徳善義一 『ルターと賛美歌』 日本キリスト教団出版局 2017 年 9784818409712
小栗献 『コラールの故郷をたずねて』 教文館 2007 年 9784818409712
内容に応じて授業時に紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

各回で扱うコラールを実際に歌うことも多いので、最低限の読譜力を持っていることが望ましい。

その他 / Others

個々の授業内容については受講生の人数や関心により多少の変更を加えることもある。パワーポイント、映像資料、録音資料、楽譜資料を適宜活用しながら授業を行なう。

注意事項(検索結果画面)

チャペル会館2F マグノリアルーム

作成:2024/10/02
科目コード:NH347

会衆賛美論演習　2

Seminar in Congregational Song 2
日本におけるキリスト教音楽の歴史

米沢　陽子(YONEZAWA YOKO)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH347
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS6813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	チャペル会館2F　マグノリアルーム		

授業の目標 / Course Objectives

日本におけるカトリック教会、プロテスタント教会それぞれの歴史と音楽を知り、礼拝における音楽の意味を考察し、現代の典礼・礼拝における課題に対し自分の考えを述べることができる。
We will learn both the history of the Catholic and Protestant churches in Japan, examine the meaning of music in worship, and state our individual thoughts on topics regarding current ceremonies and worship.

授業の内容 / Course Contents

第 1～7 回は映像資料や録音資料を用いた講義形式とするが、第 8～14 回は演習形式で行なう。あらかじめ提示されたテーマの中から各自の関心に沿って選択し、口頭発表を行なう。発表で取り上げた讃美歌・聖歌はクラス全員で歌い、ともに理解を深めていく。
The first 7 meetings will be in lecture format using videos and recordings. Meetings 8-14 will be seminars. Students will select their respective topics from the topics provided in advance based on their interests and give presentations. All class members will sing together the hymns from the presentations to deepen our understanding.

授業計画 / Course Schedule

【1】:日本語の賛美歌・聖歌の楽曲分析(1)
【2】:日本語の賛美歌・聖歌の楽曲分析(2)／愛唱賛美歌紹介
【3】:賛美歌／聖歌を創作するということ
【4】:キリスト教の伝来と日本におけるキリスト教教育(セミナリヨとコレッジョ)／天正遣欧少年使節
【5】:キリシタン弾圧と鎖国／潜伏キリシタンの祈り「おらしょ」(1)
【6】:潜伏キリシタンの祈り「おらしょ」(2)
【7】:浦上の信徒発見と再宣教／明治期のカトリック聖歌集
【8】:プロテスタントの賛美歌・聖歌(1)明治初期の各教派
自作賛美歌・聖歌の中間発表
【9】:プロテスタントの賛美歌・聖歌(2)『讃美歌』(1903 年版)
【10】:プロテスタントの賛美歌・聖歌(3)『讃美歌』(1931 年版)
【11】:プロテスタントの賛美歌・聖歌(4)『讃美歌』(1954 年版)
【12】:プロテスタントの賛美歌・聖歌(5)『讃美歌 21』
【13】:日本国内のさまざまな賛美歌・聖歌集
【14】:自作賛美歌・聖歌の発表／まとめのディスカッション―「私が考える会衆賛美とは」

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

授業外学習については必要に応じて別途指示する。礼拝出席報告およびレポート(立教大学チャペル、自分の所属教派以外の教会)を課すので、余裕をもって計画を立てておくこと。(場合によってはオンライン礼拝も可)
また第1回・第2回の授業内容を踏まえて、授業期間中に最低2曲、自作の賛美歌・聖歌の作曲に取り組む課題を課す。(第 8 回に中間発表、第 14 回に最終発表)

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 口頭発表とその準備:30% 授業への参加度:30% 礼拝出席レポート:10% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

必要に応じて資料を配布する。季刊誌『礼拝と音楽』200 号(2024 年 Winter、日本キリスト教団出版局)も参照のこと。

参考文献 / Readings

皆川達夫 『洋楽渡来考―キリシタン音楽の栄光と挫折』 日本キリスト教団出版局 2004 年 9784818405318
皆川達夫 『キリシタン音楽入門: 洋楽渡来考への手引き』 日本キリスト教団出版局 2017 年 9784818409705
手代木俊一 『讃美歌・聖歌と日本の近代』 音楽之友社 1999 年 9784276120419
季刊誌『礼拝と音楽』200 号(2024 年 Winter) 日本キリスト教団出版局

その他 / Others

個々の授業内容については受講生の人数や関心により多少の変更を加えることもある。ゲストスピーカーを招いて現代における賛美歌・聖歌の創作について学ぶ機会も設ける予定である。各回で扱う賛美歌や聖歌を歌うことも多いので、基礎的な読譜力を身につけている学生の受講を歓迎する。

注意事項(検索結果画面)

チャペル会館2F マグノリアルーム

作成:2024/10/02
科目コード:NH348

教会音楽史演習 1

Seminar in Church Music 1
イングランドのキリスト教会音楽
History of Sacred Music in England

ショウ, S.（SHAW SCOTT）

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH348
授業形態	対面（全回対面）	授業形態（補足事項）	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS6813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－（履修中止制度なし/ No system for cancellation）	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	学部科目 AA215「キリスト教学特論」と併置 チャペル会館2F　マグノリアルーム		

授業の目標 / Course Objectives

英国キリスト教会音楽を理解すること
The object of this course is to gain an understanding of the history of English sacred music.

授業の内容 / Course Contents

この授業はイギリス（英国）のキリスト教音楽を説明する。イギリスの宗教音楽は聖歌隊の音楽（特に主教座聖堂とチャペル）と会衆の音楽（教区教会の音楽）に分けられるため、別々に説明される。この授業は講義形式で行い、音源と楽譜を使用するため、楽譜を読める必要がある。受講生は宗教改革以前のイギリス礼拝音楽から現在の教会音楽事情まで学ぶ。
This class will focus on the sacred music of the English Christian Church. This music can broadly divided into that written for, and sung by choirs (mainly in cathedrals and chapels), and that sung by congregations in local parish churches. These two types of English sacred music will be explained separately. As musical scores will be examined in class, a knowledge of music and how to read it is necessary for anyone wishing to register for the class. The class will start with the music of pre-Reformation England and continue up to the music of the 20th century.

授業計画 / Course Schedule

【1】:宗教改革以前の礼拝音楽、 その 1:ミサの構造
【2】:宗教改革以前の礼拝音楽、 その 2:サルムプレーンソング
【3】:宗教改革以前の礼拝音楽、 その 3:15～16 世紀の多声ミサ曲
【4】:宗教改革時代の礼拝音楽、その 1
【5】:ウィリアムソン・バードの宗教曲
【6】:宗教改革時代の礼拝音楽、その 2:韻律の詩編歌
【7】:学生によるプレゼンテーション
【8】:王政復古と礼拝音楽の関係
【9】:18 世紀の礼拝音楽
【10】:19 世紀の礼拝音楽:主教座聖堂とチャペル
【11】:19 世紀の礼拝音楽:教区教会
【12】:20 世紀の礼拝音楽:主教座聖堂とチャペル
【13】:20 世紀の礼拝音楽:教区教会
【14】:学生によるプレゼンテーション

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		スライド(パワポ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

出される読書宿題とCD、などのリスニング

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% レポート1:15% レポート2:15% プレゼンテーション1:25% プレゼンテーション2:25% リスニングテスト:20%

テキスト / Textbooks

Stanley Sadie『ニューグローヴ世界音楽大事典』講談社 1993

参考文献 / Readings

金澤正剛『キリスト教音楽の歴史』講談社 1993
相良憲昭『音楽史の中のミサ曲』音楽之友社 2006
参考文献:
Richard Crocker: An Introduction to Gregorian chant (2000)
Andrew Gant: O Sing Unto the Lord (2015)
Nicholas Temperley: The Music of the English Parish Church (Cambridge University Press, 1983)
Kenneth R. Long: The Music of the English Church (St Martin's Press, 1972)
Eric Routeley: Short History of English Church Music (Continuum, 1997)
宮崎光:『聖公会の聖歌―いのちを奏でよ』(聖公会出版、2009年)

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

譜読みができること。
An ability to read musical scores.

注意事項(検索結果画面)

チャペル会館2F マグノリアルーム

教会音楽史演習 2

Seminar in Church Music 2
16～18 世紀のイタリアとドイツにおけるオルガンとその音楽

米沢 陽子(YONEZAWA YOKO)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	NH349
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS6813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	チャペル会館2F マグノリアルーム		

授業の目標 / Course Objectives

オルガン音楽について、時代や地域、楽器や典礼・礼拝様式との関係から説明することができる。
またオルガン奏楽者は作品に相応しい様式感を身に付けることができる。
Organ music can be explained as to its relationship to its era, region, instrumentation as well as the format of its ceremonies and worship.
Further, organ instrumentalists are able to obtain a feeling of style appropriate to the piece.

授業の内容 / Course Contents

この授業では 16～18 世紀のイタリアとドイツのオルガン音楽のレパートリーを扱う。オルガン音楽は作曲された時代や地域、楽器、典礼・礼拝様式と密接に結びついている。各回で取り上げる作品に対しては、典礼・礼拝様式、楽器、記譜法、楽曲分析からアプローチし、個々の作品がどのように成り立っているのかを考察する。なおオルガン音楽は歌との関係を抜きには語れないので、関連する聖歌の歌唱も随時行なう。演習形式で行なうので、割り当てられたテーマについて口頭発表を課す。また必要に応じて演奏実践も取り入れる。
We will take up Spanish and French organ music repertoire from the 16th - 18th centuries. Organ music is closely tied to its era, region, instrumentation as well as the format of its ceremonies and worship. We will approach the pieces taken up in each meeting by analyzing the style of ceremony and worship, instrumentation, musical notation, and composition. Then we will think about how each individual piece is constructed. In addition, as we cannot speak of music without songs, we will sing related hymns occasionally. Students will be assigned oral presentations about given topics as this course is held in seminar format. In addition, we will also implement musical performances when necessary.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オルガンという楽器の歴史と構造
【2】:イタリアのオルガンとその音楽(1)カヴァッツォーニ父子
【3】:イタリアのオルガンとその音楽(2)ヴェネツィアのオルガニストたち
【4】:イタリアのオルガンとその音楽(3)フレスコバルディ
【5】:イタリアのオルガンとその音楽(4)メルーラ、ロッシ
【6】:イタリアのオルガンとその音楽(5)18世紀のイタリアオペラとオルガン音楽
【7】:ドイツのオルガンとその音楽(1)北ドイツ楽派①ヒエロニムス・プレトリウス、シャイデマン
【8】:ドイツのオルガンとその音楽(2)北ドイツ楽派②トゥンダー、ラインケン、ベーム
【9】:ドイツのオルガンとその音楽(3)北ドイツ楽派③ブクステフーデ、ブルーンス、リューベック
【10】:ドイツのオルガンとその音楽(4)中部ドイツ楽派 ミヒャエル・プレトリウス、シャイト
【11】:ドイツのオルガンとその音楽(5)南ドイツ楽派①フローベルガー、ムファット

【12】:ドイツのオルガンとその音楽(6)南ドイツ楽派②パッヘルベル
【13】:ドイツのオルガンとその音楽(7)J. S. バッハ①コラール編曲
【14】:ドイツのオルガンとその音楽(8)J. S. バッハ②自由作品

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各回の授業で取り上げる作曲家が活躍した時代の美術、文学、社会的・文化的状況について、予め調べておくこと。また割り当てられた曲は事前に十分な練習をして授業に臨み、演奏すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 口頭発表とその準備:30% 授業への参加度:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

必要に応じて課題曲の楽譜を配布する。

参考文献 / Readings

金澤正剛『キリスト教と音楽―ヨーロッパ音楽の源流をたずねて』音楽之友社 2007 年 9784110588
松居直美、廣野嗣雄他『オルガンの芸術 歴史・楽器・奏法 』道和書院 2019 9784810530025
その他、授業で紹介する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

オルガン作品を実際に弾き、レジストレーションや解釈、作曲者や楽曲に関して学ぶ授業なので、事前に割り当てられた曲(2週間前には配布)は譜読みして、十分な練習をして授業に臨むこと。

その他 / Others

個々の授業内容については受講生の人数や関心により多少の変更を加えることもある。各回ともオルガンの実演を取り入れ、適宜、視聴覚教材、パワーポイントも活用する。
オルガン音楽は歌とともに教会で育ってきたものであるので、歌とオルガンの関係に関心を寄せる学生の受講も歓迎する。

注意事項(検索結果画面)

チャペル会館2F マグノリアルーム

作成:2024/10/02
科目コード:TH101

研究指導

Tutorial Session

阿部　善彦(ABE YOSHIHIKO)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	TH101
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期他
単位		科目ナンバリング	CHS7843
使用言語	その他	授業形式	その他
履修登録方法	その他登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

担当教員の指導の下、各自の研究テーマに沿った研究を実施して、博士学位論文につながる研究成果をまとめること。

授業の内容 / Course Contents

各自の研究テーマに沿った研究計画の検討、資料の収集、先行研究の検討等、研究に関する指導・助言及び博士論文の構成等の指導・助言を行う。

授業計画 / Course Schedule

【1】:まず各自の研究テーマの設定に関する検討、研究方法および研究全体の計画策定、資料収集の方法および先行研究に関する検討を行い、その後各自の研究の進捗にあわせて、適宜研究会、口頭での研究発表などの機会を設けて指導していく。

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自の研究テーマに関連する資料や先行研究等の収集、口頭発表の準備、論文の執筆。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合　:100%　研究報告書の内容と当該学期の研究活動とを総合的に判断する。:100%

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

作成:2024/10/02
科目コード:TH301

キリスト教学共同特別演習　1

Faculty/Student Joint Seminar in Christian Studies 1

阿部　善彦／長谷川　修一／廣石　望／梅澤　弓子／加藤　磨珠枝／加藤　喜之／ゾンターク, M／米沢　陽子／金　迅野(ABE YOSHIHIKO/ HASEGAWA SHUICHI/ HIROISHI NOZOMU/ UMEZAWA YUMIKO/ KATO MASUE/ KATO YOSHIYUKI/SONNTAG MIRA/YONEZAWA YOKO/KIM SHINYA)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	TH301
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS7813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

研究倫理および論文執筆における注意事項、研究論文や研究報告書の様々な理論的・方法論的アプローチについて学ぶ。
なお、前期課程よりも高度な知識、スキルを身に付けることを目標とする。
We will learn about scientific ethics and important aspects that demand attention in scientific writing and get an overview on various theoretical and methodological approaches.

授業の内容 / Course Contents

図書館の使い方を確認し、情報検索の方法を身につける。また研究において求められる倫理および論文執筆のルールを学ぶ(引用のし方や注の付け方などのルールを無視した結果、研究不正と見なされる事態を招く可能性があることに注意)。その上で論文や研究報告書の執筆に不可欠な基礎技法を学ぶ。
We will confirm how to use the library and how to conduct data searches. Furthermore, we will learn about the ethical demands relating to research and the rules for scientific writing (special emphasis is placed on the fact that ignorance of rules such as rules for citation and reference can lead to accusations of research misconduct). Based on these steps, we will learn fundamental methods indispensable for the preparation of scientific papers and research reports.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション
【2】:図書館講習
【3】:情報検索講習
【4】:研究倫理(1)
【5】:研究倫理(2)
【6】:論文・研究報告書執筆のルール(学術論文執筆のルール)(1)
【7】:論文・研究報告書執筆のルール(学術論文執筆のルール)(2)
【8】:論文・研究報告書執筆の基礎技法(引用・要約・レジュメ作成)(1)
【9】:論文・研究報告書執筆の基礎技法(引用・要約・レジュメ作成)(2)
【10】:論文・研究報告書執筆の基礎技法(引用・要約・レジュメ作成)(3)
【11】:論文・研究報告書執筆の基礎技法(引用・要約・レジュメ作成)(4)
【12】:論文・研究報告書執筆の基礎技法(引用・要約・レジュメ作成)(5)
【13】:論文・研究報告書執筆の基礎技法(引用・要約・レジュメ作成)(6)
【14】:論文・研究報告書執筆の基礎技法(引用・要約・レジュメ作成)(7)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用	○	校外実習・フィールドワーク	○
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習・復習、その他求められる課題(宿題)の処理。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業内活動(予習、復習、提出物および授業内での討議への参加・発言の精度):100%
遅刻、途中退出は認めない。単位取得には 80%以上の出席を必要とする。すべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

なし。

参考文献 / Readings

必要に応じて提示する。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

キリスト教学共同特別演習　2

Faculty/Student Joint Seminar in Christian Studies 2

長谷川　修一／阿部　善彦／加藤　磨珠枝／加藤　喜之／ゾンターク, M／米沢　陽子／金　迅野／藤原　佐和子／柳堀　素雅子／赤城　M.（HASEGAWA SHUICHI/ ABE YOSHIHIKO/ KATO MASUE/ KATO YOSHIYUKI/ SONNTAG MIRA/ YONEZAWA YOKO/KIM SHINYA/FUJIWARA SAWAKO/YANAGIBORI SUGAKO/AKAGI MATTHEW-KAI）

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	TH302
授業形態	対面（全回対面）	授業形態（補足事項）	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS7813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	－（履修中止制度なし/ No system for cancellation）	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針（DP）や教育課程編成の方針（CP）に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

専攻所属教員と院生の参加による、研究発表とそれを巡る議論を通して、研究課題や問題を共有し、研究上の視野拡大と理解の深化を目指す。
なお、前期課程よりも高度な知識、技術を身につけることを目標とする。
We will share research topics and problems through research presentations and debates by participating teachers and graduate students to expand the vision and deepen our understanding of the research.

授業の内容 / Course Contents

参加する院生が、各自の研究テーマについて行う研究発表を基本とする。各研究発表について、指導教員によるコメントを経た上で、全参加者による質疑応答と議論が行われ、テーマの展開と深化がはかられる。それを受けて発表者各自が調査・研究を進展させ、探求課題の修正と進展を盛り込んだうえで、最終的に論文にまとめ上げる。
Participating graduate students will present their research on their individual research topics. For each research presentation, there will be a Q&A session and debate with all participants to further develop and deepen the topics. Each presenter will use this to develop their investigations and research as well as edit and expand the research topics. Finally, they will summarize their findings in a report.

授業計画 / Course Schedule

【1】:授業ガイダンス
【2】:研究発表と質疑応答、討議
【3】:研究発表と質疑応答、討議
【4】:研究発表と質疑応答、討議
【5】:研究発表と質疑応答、討議
【6】:研究発表と質疑応答、討議
【7】:研究発表と質疑応答、討議
【8】:研究発表と質疑応答、討議
【9】:研究発表と質疑応答、討議
【10】:研究発表と質疑応答、討議
【11】:研究発表と質疑応答、討議
【12】:研究発表と質疑応答、討議
【13】:研究発表と質疑応答、討議
【14】:総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

指定の期間内に発表用資料を教育研究コーディネーターまで提出のこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 研究発表(複数回)と議論への参加:60% 最終提出論文:40%
全ての評価方法において前期課程より高度な達成基準を求める。

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

その他 / Others

春学期・秋学期連続しての履修が望ましい。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

アングリカニズム・エキュメニズム特殊研究

Studies in Anglicanism and Ecumenism
聖公会礼拝とエキュメニズム
Anglican worship and ecumenism

市原　信太郎(ICHIHARA SHINTARO)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	TH311
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS7813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

聖公会はその成立の過程からも、エキュメニズムと深い関わりを持ち、エキュメニカルな場でも重要な役割を果たしてきた。その中で特に、礼拝という観点からエキュメニズムへの関わりを考察する。
なお、前期課程よりも高度な知識、スキルを身に付けることを目標とする。
Anglicanism has had a deeply rooted relationship with ecumenism through the process of its establishment, and has also played an important role in ecumenical affairs. In this course we will examine its relationship to ecumenism, especially from the perspective of worship.
The goal of the course is to provide students with more advanced knowledge and skills than those acquired in the master's program.

授業の内容 / Course Contents

聖公会礼拝とエキュメニズムの関係について、いくつかの論文や文献を読み学んでいく。
(具体的に読む文献については担当者より提案するが、受講者と相談の上決定する。)
Students will read and study several articles and texts on the relationship between Anglican worship and ecumenism.
(The instructor will suggest specific readings, but will consult with students to determine which ones to read.)

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
Introduction
【2】:文献講読と討論
Document reading and discussion
【3】:文献講読と討論
Document reading and discussion
【4】:文献講読と討論
Document reading and discussion
【5】:文献講読と討論
Document reading and discussion
【6】:文献講読と討論
Document reading and discussion
【7】:文献講読と討論
Document reading and discussion
【8】:文献講読と討論

Document reading and discussion
【9】: 文献講読と討論
Document reading and discussion
【10】: 文献講読と討論
Document reading and discussion
【11】: 文献講読と討論
Document reading and discussion
【12】: 文献講読と討論
Document reading and discussion
【13】: 文献講読と討論
Document reading and discussion
【14】: まとめ
Closing

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

聖公会礼拝を体験したことがない学生には、実際に礼拝(特に日曜日の聖餐式)に参加してみることを強く勧める。
It is strongly recommended that students who have never experienced Anglican worship actually attend a service (especially the Sunday Holy Communion service).

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業への出席と議論への参加:50% 授業中の発表と資料:50%
すべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。
All evaluation methods require a higher level of performance than the master's program.

テキスト / Textbooks

読む文献に応じて適宜指定する。
To be specified as needed depending on the documents to be read.

参考文献 / Readings

授業中に適宜紹介する。
The information will be presented in class as needed.

その他 / Others

受講者との協議により、授業内容は適宜変更することがある。
The course outline is subject to change in consultation with students.

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

作成:2024/10/02
科目コード:TH312

キリスト教倫理学特殊研究

Studies in Christian Ethics
いのちをめぐる課題への呼応

梅澤　弓子(UMEZAWA YUMIKO)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	TH312
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS7813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

差し迫る「いのち」をめぐる課題を受けて、キリスト教倫理学からの応答の可能性を考える。
なお、前期課程よりも高度な知識、スキルを身に付けることを目標とする。
We will consider what answers from Christian ethics are possible regarding current ethical and bioethical questions.

授業の内容 / Course Contents

「いのち」をめぐって提起されている諸課題のうちから各参加者が自身の関心に応じて一つのテーマを取り上げて発題し、その後に全員で議論を行う。授業の進め方については、参加者と相談の上、柔軟に対応したい。
Each participant will select one subject matter they would like to work on regarding ethical and bioethical questions,present topics and debate with all participants.
I plan to be flexible about the course progression and negotiate with all participants.

授業計画 / Course Schedule

【1】:イントロダクション
【2】:動機の確認・問いの共有・テーマの選定
【3】:試行と考究 1　参加者による発表と討議
【4】:試行と考究 2　参加者による発表と討議
【5】:試行と考究 3　参加者による発表と討議
【6】:試行と考究 4　参加者による発表と討議
【7】:中間ふりかえり　問題の整理
【8】:試行と考究 5　参加者による発表と討議
【9】:試行と考究 6　参加者による発表と討議
【10】:試行と考究 7　参加者による発表と討議
【11】:試行と考究 8　参加者による発表と討議
【12】:試行と考究 9　参加者による発表と討議
【13】:総括 1
【14】:総括 2

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	

上記いずれも用いない予定	

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

各自が、自身の参加動機を事前に自問し、明確化しておくこと。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 発表内容:40% 討議への参加:30% 最終レポート割合::30%

すべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する

テキスト / Textbooks

参考文献 / Readings

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

作成:2024/10/02
科目コード:TH313

現代神学思想特殊研究

Studies in Modern Theological Thought
非・自由主義的な世界と文明の擁護者としてのユダヤ・キリスト教

加藤　喜之(KATO YOSHIYUKI)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	TH313
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS7813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

現代の欧米社会におけるキリスト教と政治の関係を分析することを目標とする。後期の宗教史・宗教学演習と連動しており、一年を通して、この分野における基本的な論文をともに読み、議論をしていく。
The goal is to analyze the relationship between Christianity and politics in contemporary Western societies. The course is linked to History of Religion and Seminar in Religious Studies in the fall semester, and we will read and discuss basic papers in this field together throughout the year.

授業の内容 / Course Contents

2010 年ごろを境に欧米社会では、宗教を全面に押し出した右派政党が政治の表舞台に立つようになってきた。極右政党は常に一定数存在していたが、フランスの国民連合やドイツの AfD(ドイツのための選択肢)のように、有権者の 15%以上がこうした政党を支持するようになってきているのだ。Brexit を成し遂げたナイジェル・ファランジ率いるイギリス独立党の活躍はいうまでもない。ハンガリーやポーランドにおいては、フィデスや PiS(法と正義)が政権与党となった。2020 年代に入ってもその勢いは衰えず、イタリアでもメローニ率いる「イタリアの同胞」は政権与党となり、オランダではウィルダース率いる自由党が総選挙で第一党となった。
こうした政党は大衆に直接語りかける術を熟知しているようにみえる。グローバル化の恩恵を受けられず、疲弊してしまった大衆にナショナリズムを焚き付けることで、勢力を拡大してきた。そのナショナリズムの中心に宗教を見出すことができる。
ヨーロッパ社会は世界のどこよりも世俗化が進んだ地域だといわれているが、そうした国々で宗教復興が起こっているのだろうか？観光客しか訪れなくなった教会に今いちど若者が詰めかけているのだろうか？そうではない。世俗化は進むばかりである。唯一、国民の九割近くがカトリック教徒を自認していたポーランドでさえも、その数はこの 10 年で激減している。だとするとどのようなかたちで宗教は、政治、とりわけナショナリズムを鼓舞するというのだろうか？
こうした政党によると、宗教、すなわちキリスト教こそが自国の文明的な基盤だという。とくに、ムスリム系の移民が増え、欧州のイスラーム化が恐れられる時代において、アイデンティティの源泉としてのキリスト教が高く掲げられる。本演習では、この欧米文明の擁護者、アイデンティの源泉としてのキリスト教に注目し、従来のキリスト教理解との比較しつつ、現代欧米社会における宗教と政治の関係を明らかにしていきたい。

After around 2010, right-wing parties with an all-encompassing religious agenda began to take center stage in politics in Western societies. There have always been a certain number of far-right parties, but now more than 15% of voters support them, as in the case of France's Rassemblement National and Germany's AfD (Alternative für Deutschland), not to mention the success of the UK Independence Party led by Nigel Farang in achieving Brexit. In Hungary and Poland, Fidesz and PiS (Law and Justice) became the governing parties; in Italy, Meloni's Fratelli d'Italia became the governing party; and in the Netherlands, Wilders' Partij voor de Vrijheid became the leading party in the general elections.

These parties seem to know how to speak directly to the masses. They have expanded their power by inciting nationalism among the masses, who have grown weary of not being able to enjoy the benefits of globalization. Religion can be found at the heart of this nationalism.
European societies are said to be the most secularized regions in the world, but is there a religious revival taking place in these countries? Are young people once again flocking to churches that are no longer frequented only by tourists? Not at all. Secularization is only increasing. Even in Poland, where nearly 90% of the population used to identify themselves as Catholics, the number of Catholics has declined dramatically in the past decade. In what way, then, does religion inspire politics, especially nationalism?
According to these parties, religion, or Christianity, is the civilizational foundation of their countries. Especially in an era of increasing Muslim immigration and fears of the Islamization of Europe, Christianity as a source of identity is held in high regard. In this seminar, we will focus on Christianity as the defender of Western civilization and the source of identity, and compare it with the conventional understanding of Christianity to clarify the relationship between religion and politics in contemporary Western societies.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション
【2】:論文 1
【3】:論文 2
【4】:論文 3
【5】:論文 4
【6】:論文 5
【7】:論文 6
【8】:リーディングウィーク
【9】:論文 7
【10】:論文 8
【11】:論文 9
【12】:論文 10
【13】:論文 11
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎週課題となるテクストを参加者全員が読み、その内容のまとめを論理的な文章で作成する。その文章をもとに、議論を行う。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 課題のまとめ:40% 議論への参加:20% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

授業時に適宜指示される。

参考文献 / Readings

授業時に適宜指示される。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

作成:2024/10/02
科目コード:TH314

古代イスラエル特殊研究

Studies in Ancient Israel
歴史のイスラエルと聖書のイスラエル

杉江　拓磨(SUGIE TAKUMA)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	TH314
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS7813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

キリスト教の基礎をなす旧約聖書／ヘブライ語聖書の内容や特質をその歴史的背景にもとづいて理解する。
各自が関心をもつ主題について調査・研究し，そこで得た知識や洞察をもとに自分自身の見解を論理的・批判的に構築する思考力を身につける。
Students will be able to understand the characteristics of the Hebrew Bible/Old Testament based on its historical contexts, and construct their own thesis by investigating topics of interest.

授業の内容 / Course Contents

旧約聖書／ヘブライ語聖書は古代イスラエルの歴史を扱う書物であるとしばしば言われる。しかし聖書が語る内容は実際の歴史そのものではない。聖書が描くイスラエルの民の物語は，イスラエルおよびユダ両王国の民とその祖先・末裔の経験を素材にしつつ，聖書の著者が創作した構築物として理解すべきである。この授業では，前者の聖書が描くイスラエルを「聖書のイスラエル」，そのモデルとなった後者の歴史上の人々を「歴史のイスラエル」とそれぞれ呼んで区別する。その上で，「歴史のイスラエル」について何が分かり，何が分からないか，そして，聖書の著者がどのような立場や関心から「聖書のイスラエル」を生み出したかを考察する。
授業は科目担当者による解説もまじえるが，履修者の報告と参加者全員の討論を中心に実施する。
The Hebrew Bible/Old Testament is often said to be a book telling about the history of ancient Israel. However, what the Bible tells us is somewhat different from the historical reality. The Israelite people depicted in the Bible should be understood as a literary construct, which the biblical authors created based on the experiences of the residents of the kingdoms of Israel and Judah and their ancestors as well as descendants. In this course, Israel in the biblical tradition (the ″biblical″ Israel) is distinguished from the Israelite and Judahite people in history (the ″historical″ Israel). Given this distinction, we investigate what we know and what we do not know about the ″historical″ Israel, and how the biblical writers created the ″biblical″ Israel.
The classes consist of the instructor's lecture, the students' presentations and discussion by the participants.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション
【2】:「イスラエル(人)」とは何か？
【3】:「歴史のイスラエル」を知る手がかり:考古学・碑文・聖書
【4】:「歴史のイスラエル」前史:前2千年紀末までの南レヴァントと周辺世界
【5】:「歴史のイスラエル」の歩み(1):前2千年紀末
【6】:「歴史のイスラエル」の歩み(2):前 10～8世紀
【7】:「歴史のイスラエル」の歩み(3):新アッシリア時代(前8～7世紀)
【8】:「歴史のイスラエル」の歩み(4):新バビロニア時代(前6世紀)

【9】:「歴史のイスラエル」の歩み(5):ペルシア時代(前5～4世紀)
【10】:文献としての聖書:言語・文字・文書作成および管理
【11】:「聖書のイスラエル」の成り立ち(1):新アッシリア時代(前8～7世紀)
【12】:「聖書のイスラエル」の成り立ち(2):新バビロニア時代(前6世紀)
【13】:「聖書のイスラエル」の成り立ち(3):ペルシア時代(前5～4世紀)
【14】:総括:これまでの研究成果と今後の課題

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

指定するテキストや配付資料を読み込むこと。
自分が関心をもった主題について調査すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 発表(複数回):50% 授業への積極的参加・発言:20% 最終レポート割合::30%

テキスト / Textbooks

必要に応じて別途指示する。

参考文献 / Readings

山我哲雄『聖書時代史 旧約篇』岩波書店 2003 9784006000981
I. フィンケルシュタイン／N. A. シルバーマン(越後屋朗訳)『発掘された聖書:最新の考古学が明かす聖書の真実』教文館 2009 9784764272828
K. シュミート(山我哲雄訳)『旧約聖書文学史入門』教文館 2013 9784764273719
Reinhard G. Kratz Historical and Biblical Israel: The History, Tradition, and Archives of Israel and Judah Oxford University Press 2015 9780198728771
Lester L. Grabbe Ancient Israel: What Do We Know and How Do We Know It? rev. ed. Bloomsbury 2017 9780567670434
ほかは必要に応じて別途指示する。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

旧約聖書／ヘブライ語聖書に関する基礎的な知識を必要とする。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

作成:2024/10/02
科目コード:TH315

原始キリスト教特殊研究

Studies in Early Christianity
「テサロニケの信徒への手紙一」釈義

吉田　忍(YOSHIDA SHINOBU)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	TH315
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS7813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

パウロ書簡を原典テクストから釈義することで、釈義の基本を学ぶ。
We will study the basics of exegesis by interpreting the First Epistle to the Thessalonians.

授業の内容 / Course Contents

発表者は、注解書や論文等を参考にしつつ担当箇所の訳および釈義を作成し、それを発表する。その後、参加者全員による検討を行う。
Presenters will present a translation and exegesis of their assigned part done while consulting commentaries and academic papers. A discussion will be held following this with all participants.

授業計画 / Course Schedule

【1】:ガイダンス
【2】:釈義:テサロニケの信徒への手紙一 2 章 17-20 節(1)
【3】:釈義:テサロニケの信徒への手紙一 2 章 17-20 節(2)
【4】:釈義:テサロニケの信徒への手紙一 3 章 1-5 節(1)
【5】:釈義:テサロニケの信徒への手紙一 3 章 1-5 節(2)
【6】:釈義:テサロニケの信徒への手紙一 3 章 6-10 節(1)
【7】:釈義:テサロニケの信徒への手紙一 3 章 6-10 節(2)
【8】:釈義:テサロニケの信徒への手紙一 3 章 11-13 節
【9】:釈義:テサロニケの信徒への手紙一 4 章 1-2 節
【10】:釈義:テサロニケの信徒への手紙一 4 章 3-8 節(1)
【11】:釈義:テサロニケの信徒への手紙一 4 章 3-8 節(2)
【12】:釈義:テサロニケの信徒への手紙一 4 章 9-12 節(1)
【13】:釈義:テサロニケの信徒への手紙一 4 章 9-12 節(2)
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

発表を担当する者は他の参加者が担当する注解書全てに目を通し、また、必要であれば他の注解書および論文等を参考にしつつ、担当箇所の翻訳および釈義を行い、レジュメを作成する。また、参加者全員分のコピーも作成し、発表時に配布する。
他の参加者は各自、担当する注解書を読んで来る。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 研究発表(複数回):60% 授業への参加:40%

テキスト / Textbooks

Nestle/Aland Novum Testamentum Graece (28. rev. Aufl.) Deutsche Bibelgesellschaft 2012 9783438051400

参考文献 / Readings

J. A. D. Weima 1-2 Thessalonians Baker Academic 2014 9780801026850
G. S. Shogren 1 & 2 Thessalonians Zondervan 2012 310243963
C. Wanamaker The Epistles to the Thessalonians: A Commentary on the Greek Text Eerdmans 2013 9780802870926
A. J. Malherbe The Letters to the Thessalonians Yale University Press 2004 300139845
E. J. Richard First and Second Thessalonians Liturgical Press 2007 814659748
F. F. Bruce 1 and 2 Thessalonians Zondervan 2015 310521998
G. D. Fee The First and Second Letters to the Thessalonians Eerdmans 2009 802863620

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

キリスト教史特殊研究

Studies in History of Christianity

Ecclesiae Patres et Matres, Magistri et Magistrae, qui depositum fidei de manu in manum ad seram usque posteritatem transferebant.

阿部　善彦／若松　功一郎(ABE YOSHIHIKO／WAKAMATSU KOICHIRO)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	TH316
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS7813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

キリスト教史におけるキリスト教信仰の伝統について学ぶ。それは単なる教会史、教理史の研究以上の現代的意義を有する学問実践となるインパクトを本来は備えている。というのも、現在の様々に複雑化した世界状況において、キリスト教が求められている役割は大きい。しかしながら、現在のキリスト教世界もまた、内部において対立、分裂状況を含んでおり、平和と一致に向けた歩み寄りが大きな課題となっている。そのような時代状況中で、様々な教団教派の歴史と伝統、それぞれの固有性に立脚しつつも、もう一度自らのよって立つところの源泉を再確認することは、自己理解及び相互理解を刷新、深化せしめるとともに、そこに、照古照今、新たにして、古き、キリスト教の対話的相互理解の基盤を探り当てることを可能とするものである。

We will learn about the tradition of Christian faith in Christian history. It originally had more significance from its academic applications with modern sense than simply researching the history of the church and its doctrine, because the role sought for Christianity in the current complex world situation is broad. However, in the current Christian world, there are internal rivalries and divisions. It is a big challenge to move forward with peace. In a situation like that, by reconfirming the origin of where we stand based on the history and tradition of various religious groups and denominations as well as their respective characteristics, it is possible to reform and deepen self-understanding and mutual understanding and at the same time, by referring to both the past and present as well as searching and discovering the foundation of Christian interactive mutual understanding.

授業の内容 / Course Contents

上記の授業の目的を達すべく、キリスト教史、教会史に関するテキスト、また、キリスト教思想家のテキストの神学・哲学的思想内容について理解を深める。内容は受講者の様子によって変更される場合がある。テキストは日本語訳のあるものを取り上げる予定。今年度は、近代批判の観点から中世・近世キリスト教を問い直すこととし、神学的知のあり方をめぐる問題を取り扱う予定。

We will deepen our understanding of theological and philosophical thought from the texts of Christian thinkers to achieve the above purpose of the course. The content may change depending on the situation of the students. I plan to use Latin texts that have Japanese translations.

授業計画 / Course Schedule

【1】:ガイダンス
【2】:イントロダクション
【3】:問題設定について
【4】:テキスト読解に向けて

【5】:テキストにもとづく検討1
【6】:読解
【7】:討議
【8】:テキストにもとづく検討2
【9】:読解
【10】:討議
【11】:テキストにもとづく検討3
【12】:読解
【13】:討議
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表	○	ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

予習復習については授業内で指示する。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業に関する活動(予習復習そのほか課題の提出と内容の精度を含む):100%

テキスト / Textbooks

大森正樹『グレゴリオス・パラマス研究』創文社 2000 9784423171226
パラマス『聖霊と神のエネルゲイア』知泉書館 2023 9784862853783
大森正樹『観想の文法と言語』知泉書館 2017 4862852653
土橋茂樹『教父哲学で読み解くキリスト教』教文館 2023 9784764261761
田島・阿部『テオーシス』教友社 2018 4907991401
テキストの購入は各自の判断に任せる。使用する文献資料は授業内で指示する。

参考文献 / Readings

Michel Henry Können des Lebens: Schlüssel zur radikalen Phänomenologie ALBER 2017 9783495489253
D. Mieth Ketzerflammen in Paris: Marguerite Porete, Meister Eckhart und die Intrigen der Inquisition Der Blaue Reiter 2024 9783933722881
J. Brachtendorf Augustinus de Genesi Ad Litteram Brill Schoningh 2021 9783506791283
Maine de Biran Die innere Offenbarung des ″geistigen Ich″: Drei Kommentare zum Johannes-Evangelium Echter 2010 9783429033118
Bernard Mcginn The Persistence of Mysticism in Catholic Europe: France, Italy, and Germany, 1500-1675 Herder 2023 9780824598860
Meister Eckhart Meister Eckhart. Deutsche Werke Band 4,3 Kohlhammer 2024 9783170437890
M. Roesner Hermeneutik des Lebens Peeters 2022 9789042943209

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

作成:2024/10/02
科目コード:TH317

キリスト教美術特殊研究

Studies in Christian Arts
中世ロマネスク時代の巡礼路聖堂の彫刻、壁画

中西　麻澄(NAKANISHI MASUMI)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	TH317
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS7813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

西欧中世、特にロマネスク時代は大規模な彫刻や壁画が、聖大ヤコブの墓所のあるサン・ティアゴ・デ・コンポステラ聖堂への巡礼路沿いの教会堂に多数作られた。キリス教図像学の理解を深めるだけでなく、自ら文献を調べ、それらの形象と『聖書』のテキストの関連性を深く考察できるようにする。

During the Western Middle Ages, especially the Romanesque period, many large-scale sculptures and mural paintings were created in churches along the pilgrimage route to Santiago de Compostela, where the tomb of St. James the Greater is located. In addition to gaining a deep understanding of Christian iconography, students will also be able to read research books themselves and deeply consider the relationship between images and the text of the Bible.

授業の内容 / Course Contents

ロマネスク時代(12 世紀頃)の、サン・ティアゴへの巡礼路沿いのフランスやスペインの聖堂壁画や彫刻を対象とする。時代背景とともに解説し、それら図像と『聖書』のテキストとを比較考察する。

This seminar focuses on the mural paintings and sculptures of churches in France and Spain along the pilgrimage route to Santiago de Compostela from the Romanesque period (around the 12th century). We will explain the historical background and compare these images with the text of the Bible.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション
サン・ティアゴ・デ・コンポステラへの巡礼路教会、ロマネスク美術概観
【2】:レオン、サン・イシドーロ聖堂(1)壁画:《荘厳のキリスト》
モワサック、サン・ピエール聖堂(1)、南扉口彫刻:《荘厳のキリスト》
ベルゼ・ラ・ヴィル聖堂、アプシス壁画:《トラディシオ・レギス》
【3】:サン・サヴァン聖堂、身廊壁画:《創世記》
オータン、サン・ラザール聖堂(1)、楣(まぐさ)彫刻:《エヴァ》
【4】:レオン、サン・イシドーロ聖堂(2)壁画:《受胎告知》《羊飼いへのお告げ》《幼児虐殺》
オータン、サン・ラザール聖堂(2)柱頭彫刻:《東方の三博士》
【5】:ヴェズレー、サント・マドレーヌ聖堂(1)彫刻概観、中央柱彫刻:《洗礼者ヨハネ》
【6】:レオン、サン・イシドーロ聖堂(3)壁画:《最後の晩餐》《磔刑》
シャルリウ、サン・ピエール聖堂扉口彫刻:《最後の晩餐》
【7】:トゥールーズ、サン・セルナン聖堂、扉口彫刻:《昇天》
サント・ドミンゴ・デ・シロス聖堂、回廊彫刻:《トマスの不信》
【8】:ヴェズレー、サント・マドレーヌ聖堂(2)扉口彫刻:《聖霊降臨》
【9】:ヴェズレー、サント・マドレーヌ聖堂(3)扉口彫刻:《聖ペテロと聖パウロ》

【10】:ヴェズレー、サント・マドレーヌ聖堂(4)扉口彫刻:《月暦図と黄道十二宮》
レオン、サン・イシドーロ聖堂(4)壁画:《月暦図》
【11】:コンク、サント・フォワ聖堂(1):《聖遺物箱(サント・フォワ像)》
サン・ティアゴ・デ・コンポステラ聖堂(1)、扉口彫刻:《栄光の門》、巡礼の道
【12】:コンク、サント・フォワ聖堂(2)扉口彫刻:《最後の審判》
【13】:モワサック、サン・ピエール聖堂(2)、中央柱彫刻:《エレミア像》
サン・ティアゴ・デ・コンポステラ聖堂(2)、中央柱彫刻:《聖大ヤコブ像》
〔次のゴシック時代へ〕シャルトル大聖堂、人像円柱:預言者像
【14】:まとめ

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

図書館で美術全集を見たり、展覧会鑑賞をするなど、積極的に美術作品にふれる努力をしてください。
授業で扱った作品に関する『聖書』のテキストを読み返したり、図像学辞典を見直したりして授業内容の理解を深めるようにしてください。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 授業参加度:40% 授業内課題(複数回):60%
すべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

テキストや資料は授業内で配布する。

参考文献 / Readings

授業中にその回の内容に応じた参考図書を紹介する。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

作成:2024/10/02
科目コード:TH318

比較宗教特殊研究

Studies in Comparative Religion
宗教学的キリスト教研究の可能性

久保田　浩(KUBOTA HIROSHI)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	TH318
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS7813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

「宗教」という現象への宗教学的アプローチとキリスト教学的アプローチは、分析上のどのような視座を相互に共有しているのだろうか。あるいは理論的・方法論的な観点から見て、両者の間にはいかなる差異が存在するのであろうか。昨今、学際的な志向が顕著となりつつある宗教研究における方法論的・理論的議論を介して、キリスト教研究が抱える問題点ならびに可能性を照射し、各自の具体的な研究活動における学問論的反省の重要性を認識する。
What analytical perspectives can Religious Studies and Christian Studies share with regard to academic approaches to "religion(s)", or what methodological and theoretical differences can be discerned between them? We will look at the problems and potential of Christian Studies, while engaging with recent methodological and theoretical debates in Religious Studies, which are increasingly inclined towards interdisciplinarity. In this way, we will understand the importance of academic self-reflection in the practice of participants' concrete research.

授業の内容 / Course Contents

宗教研究は 19 世紀中葉以降、宗教現象や宗教システムを「学問的」(「非神学的」、「非宗派的」)に論じることを目的として掲げた比較的若い学問分野である。これは西洋の文脈において、「宗教」を論じる学問としての自己理解を確立していた「神学」との間に対象領域画定を巡る問題が生起せざるを得なかったということを意味している。こうした緊張関係の中に当初から位置し続けた宗教研究が、その後展開してきた(特に 20 世紀最後の四半世紀以降の)方法論・理論を考察することによって、それらが現在のキリスト教研究に対して果たしうる貢献の可能性と、宗教研究・キリスト教研究の両者が抱える学問論的問題を明らかにする。本授業では、文献(主に英語文献)の講読とそれに基づく発表・議論を行う。
Religious Studies is a relatively young discipline that emerged after the mid-19th century with the aim of analyzing religious phenomena and systems in an "academic" (i.e. "non-theological" or "non-denominational") way. This means that, in the Western context, a problem had to arise between "Theology" and "Religious Studies" with regard to the objects of study, since Theology saw itself as the only discipline qualified to deal with "religion". We will evaluate the methodologies and theories that "Religious Studies" has developed (especially since the last quarter of the 20th century) and highlight their possible contributions to contemporary "Christian Studies", as well as the scholarly problems that concern both "Religious Studies" and "Christian Studies". In this course we will read literature (mainly in English) and hold presentations and debates on it.

授業計画 / Course Schedule

【1】:導入――「宗教」研究と「キリスト教」研究
【2】:講読・議論――「神学」と「学問的神学」
【3】:講読・議論――「学問」を超える「神学」
【4】:講読・議論――「学問的神学」の歴史と「宗教学」の成立(1)
【5】:講読・議論――「学問的神学」の歴史と「宗教学」の成立(2)

【6】:講読・議論――近代の大学制度における「神学」と「宗教学」(1)
【7】:講読・議論――「近代の大学制度における「神学」と「宗教学」(2)
【8】:講読・議論――「神学」と「宗教学」の差異(1)
【9】:講読・議論――「神学」と「宗教学」の差異」(2)
【10】:講読・議論――「神学」と「宗教学」の統合？(1)
【11】:講読・議論――「神学」と「宗教学」の統合？(2)
【12】:講読・議論――宗教学的概念としての「神学」
【13】:講読・議論――「神学」と「宗教学」を超えて(1)
【14】:講読・議論――「神学」と「宗教学」を超えて(2)

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用		左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

講読テクスト箇所の入念な下調べ。発表に向けてのレジュメ等の準備。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 複数回の発表:60% 議論への参加:40%

テキスト / Textbooks

初回授業時に教室で、あるいは授業開始前に Canvas LMS 上で、講読文献(のコピー)を配布する。

参考文献 / Readings

Eric J. Sharpe Comparative Religion. A History, 2nd. ed. Duckworth 1986
Jaques Waardenburg (ed.) Classical Approaches to the Study of Religion, vol. 1 Mouton 1974
John Hinnells (ed.) The Routledge Companion to the Study of Religion, 2nd ed. Routledge 2010
Willi Braun et. al. (eds.) Guide to the Study of Religion Continuum 2000
Mark C. Taylor (ed.) Critical Terms for Religious Studies University of Chicago Press 1998
George D. Chryssides et. al. (eds.) The Study of Religion: An Introduction to Key Ideas and Methods Bloomsbury 2013
その他、授業時に適宜紹介される。

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

学部において、「宗教学」「宗教史(学)」「比較宗教学」「宗教…学」「…教概論」等の、諸宗教もしくは宗教学に関連する科目を履修していることが望ましいが、必須ではない。

その他 / Others

初回に発表担当回を決定する。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

作成:2024/10/02
科目コード:TH319

アジア・キリスト教特殊研究

Studies in Christianity in Asia
明治期日本のプロテスタント古典の再考
A Reconsideration of Japanese Protestant Classics of the Meiji Period

ゾンターク, M(SONNTAG MIRA)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	TH319
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS7813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

近年発表された研究文献を参考にしながら、明治期日本に刊行された重要なプロテスタント著作を精読し、その文脈とそれによって引き起こされた言説を思想史的観点から検討・考察する。
While consulting recently published research, we will closely examine important Japanese Protestant works from the Meiji period, further analyse and consider their context and the discourses that were triggered by these works from the perspective of history of thought.

授業の内容 / Course Contents

履修者と相談の上、明治期のプロテスタント著作からいくつかを選定して読み込んでいく。また討議を通してその著作とそれに含まれている論点・主張の近代日本プロテスタント思想史的意義を問う。

In consultation with the course participants a few Protestant works from the Meiji period will be selected for thorough reading. During class discussions we will assess the impact of arguments and propositions contained in those works on the intellectual history of modern Japan.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション:日程確認、役割分担など
【2】:文献紹介・考察の発表1
【3】:文献紹介・考察の発表2
【4】:文献紹介・考察の発表3
【5】:文献紹介・考察の発表4
【6】:文献紹介・考察の発表5
【7】:文献紹介・考察の発表6
【8】:文献紹介・考察の発表7
【9】:文献紹介・考察の発表8
【10】:文献紹介・考察の発表9
【11】:文献紹介・考察の発表10
【12】:文献紹介・考察の発表11
【13】:文献紹介・考察の発表12
【14】:総括

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

文献の精読・まとめ・考察の準備

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ

平常点割合 :100% 出席, 議論への参加状況:40% 複数回の発表:60%

テキスト / Textbooks

テキストは pdf として提供される。

参考文献 / Readings

授業時に提示する。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

作成:2024/10/02
科目コード:TH320

フィールドスタディ 1

Field Studies 1
「ともに生きる」ことの思想と実践

金 迅野(KIM SHINYA)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	TH320
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS7813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

「人権」、「多文化共生」などの概念の成り立ちについて理解し、「共に生きる」ことを阻害する事態はなぜ生じるのか、それらを克服するためにそれらの概念がフィールド/実生活のなかでどのように活かされうるかを考察する。
なお、前期課程よりも研究の達成程度に即した豊かな質疑応答を求めたい。
We will learn the concept of “human rights” and “multi-culturalism” and consider what disturbs “co-living”, and how to overcome these obstacles.

授業の内容 / Course Contents

「人権」、「多文化共生」などの概念をめぐる様々な課題と論考について理解を深めると同時に、「フィールド/生活世界」で起きたこと、起きていることの断片を理解し、生じている矛盾や具体的な個が背負う困難を克服するためのさまざまな人びとの努力やその背後に横たわる個人の「声」に耳をすませる。適宜、キリスト教「界」の思考についても紹介する。学生は、テクストに基づき、あるいはそれぞれの関心に基づいて「ともに生きる」ことに関する発表をおこなう。
We will cover some basic arguments on “human rights” and “multi-culturalism.” We will also learn past and present incidents in the field of human rights and multi-culturalism, particularly focusing on the voices of individuals who face difficulties and contradictions and how they overcome those situations. We will introduce some Christian ideas as appropriate. Students are required to make presentations based on their own interests.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション:ゲームを通して「違い」を考える
【2】:この時代の際(edge)を生きる①
【3】:この時代の際(edge)を生きる②
【4】:豊かさの起源①
【5】:学生の発表
【6】:豊かさの起源②
【7】:学生の発表
【8】:根っこから引き剥がされるという経験①
【9】:根っこから引き剥がされるという経験②
【10】:学生の発表
【11】:根っこから引き剥がされるという経験③
【12】:「われわれ」とは誰か?
【13】:声をあげる伝統
【14】:ふりかえり/ヘイトをくぐりぬけるために

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、文献資料だけでなく、映像作品などを含めた資料を、授業内で広く紹介する予定。紹介する参考文献、資料を盛り込んだレジュメは、前日までに Canvas LMS にアップするので、あらかじめ読み込んでおくことが望ましい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 出席および授業参加態度:70% 発表:30%
前期課程より研究の蓄積に応じたテクストの読みと議論への参加

テキスト / Textbooks

その都度提示する。

参考文献 / Readings

カロリン・エムケ『憎しみに抗って』みすず書房 2018 9784622086703
塩原良和『共に生きる』弘文堂 2012 4335501242
宮地尚子『環状島=トラウマの地政学』みすず書房 2007 4622087383
G・アガンベン『ホモ・サケル』以文社 2002 475310253
参考文献は、基本的に授業内で提示する。以上のもの以外にも、広く、コミック、文学作品、写真なども適宜、参考「文献」として広く紹介する予定。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

作成:2024/10/02
科目コード:TH321

フィールドスタディ 2

Field Studies 2
多重・多層の危機の「同時代」を生きることの意味を考える

金 迅野(KIM SHINYA)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	TH321
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS7813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考			

授業の目標 / Course Objectives

現代社会に生きながら「生きにくさ」を感じないことはまれなのではないか。「生きにくさ」の淵源はさまざまに把握しうるが、学生が自分なりの井戸をフィールド/生活世界の中に発見し、pandemic の時代の「生きにくさ」に対処すべき端緒を発見することの一助になることが本授業の目標である。適宜、キリスト教「界」の思考や実践についても紹介、議論したい。
なお、前期課程よりも研究の達成程度に即した豊かな質疑応答を求めたい。
We may sometimes feel difficulties in life especially in the days of the pandemic. In this seminar, we try to make students find a clue to confront the difficulties in their own fields. Some examples of Christian ideas or practices will be introduced as appropriate.

授業の内容 / Course Contents

「近代」が成立する過程で生じたいくつかの出来事にスポットを当てながら、近代の「光」と「影」が生じたのはなぜなのか、適宜キリスト教界の思想や実践にもふれながら、「光」や「影」は誰にとっての「光」や「影」であったのかを理解する。そのうえで、「影」の部分である「分断」、「格差」、「憎しみ」をくぐりぬけてどのように「和解」(自分との和解を含めて)をパンデミックのフィールド(現実)のなかに見出しうるのかを考える。適宜、キリスト教「界」の思考や実践についても紹介、議論したい。学生は、議論しつつ湧出したテーマに即して発表する。
Focusing on some events that occurred during the process of the establishment of “modernity,” we will consider why modernity generates the lightand the shade, and the light for whom and the shade for whom. We will also pursue how we overcome and reconcile “shade”,ther is, segmentation, disparity, hate, and so on in the concrete living fields. Some examples of Christian ideas or practices will be introduced as appropriate. Students will make presentations based on the assigned theme.

授業計画 / Course Schedule

【1】:オリエンテーション
【2】:「近代」という問題の素描
【3】:帝国の眼差しを読む
【4】:帝国の眼差しとキリスト教① 学生の発表
【5】:帝国の眼差しとキリスト教②学生の発表
【6】:ふれるべき「日本」の根源①
【7】:ふれるべき「日本」の根源②
【8】:ふれるべき「日本」の根源③
【9】:ふれるべき「日本」の根源④
【10】:むきだしの生①
【11】:むきだしの生②

【12】:「共感」をめぐるディスカッション
【13】:「人間の条件」について
【14】:「我に触れるな」／「亡命」の経験の痕跡＋ふりかえり

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書	○	ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

毎回、文献資料だけでなく、コミック、文学作品、映像作品などを含めた資料を、授業内で広く紹介する予定。紹介する参考文献、資料を盛り込んだレジュメは、前日までに Canvas LMS にアップするので、あらかじめ読み込んでおくことが望ましい。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 出席および授業参加態度:70% 発表:30%
前期課程より研究の蓄積に応じたテクストの読みと議論への参加

テキスト / Textbooks

なし

参考文献 / Readings

西谷修ほか『20 世紀の定義4』岩波書店 2001 4000265547
H.アーレント『全体主義の起原2』みすず書房 2003 4622086263
芦名定道『現代神学の冒険』新教出版社 2020 9784400327684
金澤周作『チャリティの帝国』岩波新書 2021 9784004318804
鈴木直『アディクションと金融資本主義の精神』みすず書房 2023 9784622096047
毎回広く、上記文献資料だけでなく、コミック、文学作品、映像作品などを含めた資料を、授業内で広く紹介する予定。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

キリスト教音楽特殊研究　1

Studies in Christian Music 1
ローマ・カトリック教会における典礼と音楽

米沢　陽子(YONEZAWA YOKO)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	TH322
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	春学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS7813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部の R Guide に掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業 60 単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	チャペル会館2F　マグノリアルーム		

授業の目標 / Course Objectives

ローマ・カトリック教会の典礼の二本柱であるミサと聖務日課の概要と、典礼に用いられる音楽について理解を深める。典礼音楽がどのようにして生まれ、歌い継がれてきたのかを学び、典礼における音楽が果たす意味について自ら説明できる。また、その学びを自分が関わる教会の典礼・礼拝に活かすことができるようにする。
後期課程においては前期課程よりも高度な知識、スキルを身に付け、それらを活用して研究内容を明瞭かつ的確に聴き手に伝えられることを目標とする。
We will deepen our understanding of the two pillars for rituals of the Roman Catholic Church, Mass and Liturgy of the Hours as well as the music used in rituals. We will study how ritual music was born and passed along as well as learn to explain independently the meaning of music in rituals. Moreover, we will use what we learned in the church rituals and worship in which we are involved.

授業の内容 / Course Contents

基本的に講義形式で進めていく。文献講読も行う。西洋音楽の源であるグレゴリオ聖歌にも重点を置き、グレゴリオ聖歌がその後の音楽史にどのような影響を与えたのかを考察していく。各回で扱う音楽作品については可能な限りオリジナル楽譜を紹介し、実際に声に出して歌うことも試みたい。
The course will mostly consist of lectures. We will also place emphasis on Gregorian chants, which are the origin of Western music. We will inquire into how Gregorian chants later influenced music history. We will introduce original scores for the musical pieces taken up each time as much as possible. I would also like to let us try singing the music out loud.

授業計画 / Course Schedule

【1】:旧約聖書の音楽(1)　歌と楽器と踊りによる賛美
【2】:旧約聖書の音楽(2)　詩編①
【3】:旧約聖書の音楽(3)　詩編②
【4】:旧約聖書の音楽(4)　詩編③
【5】:初期キリスト教会における典礼と音楽
【6】:ローマ・カトリック教会における典礼―ミサと聖務日課―
【7】:グレゴリオ聖歌(1)　成立過程とネウマ譜の歴史
【8】:グレゴリオ聖歌(2)　ネウマ譜の読み方／教会旋法について
【9】:ミサ通常文とミサ固有文
【10】:聖務日課(1)修道院の成立とその生活
【11】:聖務日課(2)朝課・賛課・晩課の音楽
【12】:聖母マリアへの祈り

【13】:レクエイム
【14】:グレゴリオ聖歌の伝統と現代／授業内サマーコンサート

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	○
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験	○	学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

第1～4回は各自、聖書を持参すること。詩編は「旧約聖書の音楽」の回のみならず、講座全般の学びの礎となるものなので、日頃から読む習慣をつけて授業に臨むことが望ましい。
授業時間外の学習に関する指示は必要に応じて別途指示するが、中世、ルネサンス期の音楽について視聴覚資料等で予備知識を得ておくこと。また予め配布する楽譜を譜読みしておくこと。
「私のイチ押しキリスト教音楽」というプレゼンテーションを課すので準備すること。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 口頭発表とその準備:30% 授業への参加度:30% 最終レポート割合::40%
すべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

テキスト / Textbooks

特に指定しない

参考文献 / Readings

金澤正剛 『キリスト教と音楽―ヨーロッパ音楽の源流をたずねて』 音楽之友社 2007 年 9784110588
金澤正剛 『中世音楽の精神史―グレゴリオ聖歌からルネサンス音楽へ』 河出書房新社 2015 年 9784309413525
水野信男 『ユダヤ音楽の歴史と現代』 アカデミアミュージック 1997 年 4870170663
その他、授業中に適宜紹介する

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

賛美歌／聖歌を初見である程度歌える読譜力を持っていることが望ましい。

その他 / Others

講義の中では必要に応じて、パワーポイント、視聴覚資料を適宜活用する。また個々の授業内容については受講生の人数や関心により多少の変更を加えることもある。実際に楽譜を用いて歌うことも多いので、基礎的な読譜力を身につけている学生の受講を歓迎する。学部開設の「演習 A9」との併設科目である。学期末に授業内サマーコンサート、夏合宿中にもコンサートを実施予定である。(歌唱、楽器演奏で参加すること)

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

注意事項(検索結果画面)

チャペル会館2F マグノリアルーム

作成:2024/10/02
科目コード:TH323

キリスト教音楽特殊研究 2

Studies in Christian Music 2

ドイツ・ルター派のコラールとJ. S. バッハの編曲技法ー声楽作品(カンタータ、受難曲)、オルガン編曲からの考察

米沢 陽子(YONEZAWA YOKO)

科目設置学部	キリスト教学研究科		
開講年度	2024	科目コード等	TH323
授業形態	対面(全回対面)	授業形態(補足事項)	
校地	池袋	学期	秋学期
単位	2	科目ナンバリング	CHS7813
使用言語	その他	授業形式	演習・ゼミ
履修登録方法	科目コード登録		
配当年次	配当年次は開講学部のR Guideに掲載している科目表で確認してください。		
先修規定			
他学部履修可否	履修登録システムの『他学部・他研究科履修不許可科目一覧』で確認してください。		
履修中止可否	ー(履修中止制度なし/ No system for cancellation)	オンライン授業60単位制限対象科目	
学位授与との関連	各授業科目は、学部・研究科の定める学位授与方針(DP)や教育課程編成の方針(CP)に基づき、カリキュラム上に配置されています。詳細はカリキュラム・マップで確認することができます。		
備考	チャペル会館2F マグノリアルーム		

授業の目標 / Course Objectives

ルター派のコラールの歌詞内容を理解し、バッハがカンタータや受難曲、オルガン作品のなかで歌詞の内容をどのように音として描こうとしたかを、楽曲分析を通して説明することができる。後期課程においては、前期課程よりも高度な知識、スキルを身に付け、それらを活用して研究内容を明瞭かつ的確に聴き手に伝えられることを目標とする。

We will understand the lyrics of Lutheran chorales. By analyzing these songs, we will be able to explain how Bach expressed these lyrics using sound with his cantata and Passion music and organ pieces.

授業の内容 / Course Contents

バッハのオルガン・コラール作品を弾く際、オルガニストは解釈の手掛かりをカンタータとコラールの歌詞に求める。バッハのカンタータや受難曲がルター派のコラールを基にして作曲されていることは周知のとおりである。この授業では、同じコラールに基づくカンタータとオルガン編曲を並べて取り上げ、バッハが共通の「素材」を用いてどのような手法で音楽を作り上げていったかを楽曲分析を通して考察する。基本的に講義形式で進めていくが、いくつかのテーマについては受講生に口頭発表を課す予定である。また必要に応じて演奏実践も取り入れる。

An organist seeks hints on how to interpret the cantata and chorale from its lyrics when playing Bach's organ chorales. As you know, Bach's cantatas and Passion music were composed based on Lutheran chorales. In this course, we will take up cantatas and organ compositions based on the same chorale. We will examine with what method Bach used the same "material" to create music by musical analysis. The course will mostly consist of lectures, but I plan to have students give verbal presentations on several topics. In addition, we will also implement musical performances when necessary.

授業計画 / Course Schedule

【1】:ルター派のコラールと教会音楽家J. S. バッハ
【2】:Christ lag in Todesbanden(1)コラール原曲
【3】:Christ lag in Todesbanden(2)カンタータ BWV4 (復活節第1主日)
【4】:Christ lag in Todesbanden(3)オルガン編曲 BWV 629 他
【5】:Ein feste Burg ist unser Gott(1)コラール原曲
【6】:Ein feste Burg ist unser Gott(2)カンタータ BWV 80 (宗教改革記念日)
【7】:Ein feste Burg ist unser Gott(3)オルガン編曲 BWV 720
【8】:Nun komm, der Heiden Heiland(1)コラール原曲
【9】:Nun komm, der Heiden Heiland(2)カンタータ BWV 62(待降節第1主日)
【10】:Nun komm, der Heiden Heiland(3)オルガン編曲 BWV599, 659, 660, 661
【11】:Wachet auf, ruft uns die Stimme (1)コラール原曲
【12】:Wachet auf, ruft uns die Stimme(2)カンタータ BWV140(三位一体後第27主日)

【13】:Wachet auf, ruft uns die Stimme(3)オルガン編曲 BWV645
【14】:まとめ ― J. S. バッハが目指した音楽表現とは

活用される授業方法 / Teaching Methods Used

板書		ｽﾗｲﾄﾞ(ﾊﾟﾜﾎﾟ等)の使用	○	左記以外の視聴覚教材の使用	
個人発表	○	グループ発表		ディスカッション・ディベート	○
実技・実習・実験		学内の教室外施設の利用		校外実習・フィールドワーク	
上記いずれも用いない予定					

授業時間外(予習・復習等)の学習 / Study Required Outside of Class

上記授業で取り上げるコラールの歌詞(ドイツ語)を読み込み、旋律を頭に入れておくこと。その他、必要に応じて別途指示する。予め配布したコラールの楽譜を譜読みしてくること。また必要に応じて楽曲分析の課題・発表を課すこともある。

成績評価方法・基準 / Evaluation

平常点のみ
平常点割合 :100% 口頭発表とその準備:30% 授業への参加度:30% 最終レポート割合::40%

テキスト / Textbooks

特に指定しない

参考文献 / Readings

マルティン・ゲック『ヨハン・ゼバスティアン・バッハ』 東京書籍 2001 年 4487797195
鈴木雅明『バッハ 神と人とのはざまで』 音楽之友社 2021 年 9784276130197
その他、授業中に適宜紹介する。また『バッハ全集』(小学館)の CD および解説書は重要な資料となるので、受講生は各自の関心に沿って CD を聴き、解説を読み、バッハの音楽への理解を深めることが望ましい。(図書館所蔵)

履修に当たって求められる能力/ Abilities Required to Take the Course

賛美歌/聖歌を初見で歌える程度の読譜力があることが望ましい。

その他 / Others

授業で取り上げるコラール(ドイツ語)はクラス全員で歌唱するので、基礎的な読譜力を身につけている学生の受講を歓迎する。またカンタータ、オルガン編曲の回では録音資料、楽譜資料を用いて行う。個々の授業内容については受講生の人数や関心により多少の変更を加えることもある。
「キリスト教音楽に関する文献紹介」というプレゼンテーションを課すので、各自、早めに紹介する本を決定し、準備を進めること。
学部開設の「演習 A10」との併置科目である。

注意事項

授業の目標およびすべての評価方法において、前期課程よりも高度な達成水準を要求する。

注意事項(検索結果画面)

チャペル会館2F マグノリアルーム